京城日報
二十日夕刊
定價 一部金二錢 一ヶ月金五十五錢(前金) 郵券代用二割增
廣告料 五號活字一行金七拾錢 ▲雜報欄一行金一圓 ▲所定一行金拾錢增 ▲三號活字は二號活字同樣 ▲六號活字は五號活字同樣の事
編輯兼發行人 奧田直毅
印刷人 樫口欣太
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話 編輯 長三一二四 營業 長二六三 振替貯金口座京城六〇〇番

歐洲大戰亂

▲英獨艦隊出動 兩國大艦隊の出現

コペンハーゲン來電に據れば十九隻より成る獨逸の二三艦隊は十七日波羅的より北海に入り(紐育電報)

○聖駕山田著御

聖駕十九日午後一時四十五分伊勢山田著御、添田鐵道院總裁先頭に五十一聯隊の一個大隊堵列奉迎の煙火百發殷々天に沖し[illegible]驛前奉迎門を過ぎ行在所御著あらせられしは二時二十五分なりき時に二見ケ浦碇泊の警護第二艦隊は百一發の皇禮砲を放ち沿道十餘萬人奉迎者ありたり、行在所、御座所は三十疊敷の西洋室にて床には絨毯を敷き玉座の三方には金屏風を立て盆栽を飾れるが五十鈴川のせゝらき手に取るが如く雲迷ふタテワチ山の松風は御枕に通はん(山田特電)

○參加四萬の大觀兵式

來月二日青山練兵場に於て擧行せらるべき大觀兵式は御即位後第一次の觀兵式とて陸軍省に於ては大島次官以下日夜準備に忙殺せられつゝあるが當日は大元帥陛下を始め奉り皇族各宮殿下外國使臣文武百官參列すべく御參列部隊は近衛第一兩師團の全部第二師團以下の各師團より四百名の大小部隊及び朝鮮青島臺灣の代表將校並に陸軍諸學校生徒等四萬の多數に上るべく又代々木練兵場に集合する二十臺の飛行機飛行船が縱隊の陣形を作りて練兵場の天空高く分列式を擧行する由なれば當日は到底筆紙の能く盡す能はざる壯觀を呈すべしと(東京特電)

▲カテガツト海に現はる

巡洋艦及び驅逐艦より成る英佛大艦隊カテガツト海に現はれたり海戰豫期さる(倫敦電報)

▲聯合國の準備既に成る 希臘の回答次第

羅馬來電に據れば聯合國に對する希臘の回答は多分十九日又は二十日に接受す可く聯合國にては此上回答の遲延を許さざる可し直に非常手段を執る可き必要の準備既に成れり伊太利は巴爾幹に於ける聯合軍の活動に於ても最も重要なる擔當を爲す可し(倫敦電報)

▲羅國獨墺に加擔せん

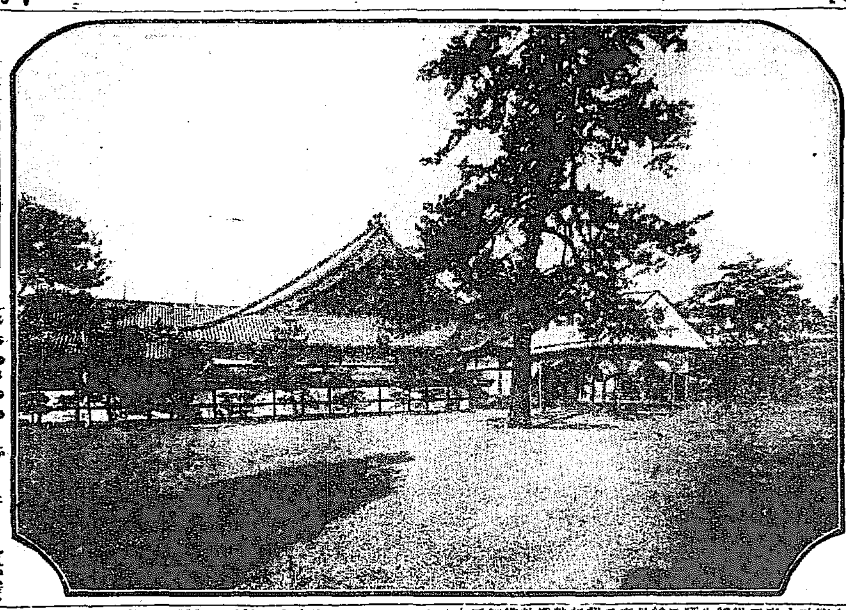
羅馬尼は極力軍需品の準備中なるが間も無く獨墺軍に加擔するものと察せり(紐育特電)

▲ブリレツプ勃軍に占領せらる

サロニカ來電に據ればブリレツプは勃軍の爲め占領され英軍はモナスケール救助の爲め急行せり(紐育電報)

○大典參列者歸任

御大典に參列せし國分司法部長官、鈴木土地調査局長、小松中樞院書記官長、工藤全羅南道長官の諸氏何れも二十日午前釜山著其れ〳〵歸任し石塚度支部長官は同じく釜山著直に東萊溫泉に向へり(釜山特電)



二條離宮御車寄 (大禮謹寫圖拜寫)

雜報

◎本月上半朝鮮貿易 輸移出入の均衡益々順潮を呈す

▲輸移出入狀況 本月上半の貿易額は總計四百八十四萬八千四百四十九圓にして内輸移出品價二百五十七萬五千五百六十九圓を算せるを以て之れを輸移入品價二百二十七萬二千八百八十圓と對照するに三十萬二千六百八十九圓てふ稀有の輸移出超過を示せり、而して之れを前年同期に比すれば輸移出品價に在りては百二十七萬九千百九圓の激增を來し輸移入品價に在りては十萬九千五百六十八圓の增進を示せるを以て結局貿易總額に於て百三十八萬八千六百七十七圓の增加を見たり

▲一月以降累計 次に本年一月以降の累計を調ぶるに輸移出品價三千八百三十九萬二千三百三圓、輸移入品價五千三十七萬一千三百二十八圓にして貿易總額八千八百七十六萬三千六百三十一圓を算せり、今之れを前年同期間に比するに輸移出額は二千七百四十萬七千八百十九圓にして一千九百十八萬四千四百八十四圓の膨脹を來し、輸移入額は五千五百九十八万八千六百六十一圓にして五百六十一萬七千三百三十三圓の減退を示し、貿易の增進と共に輸移出入の均衡益々順調の緒を擧げつゝあり

▲貿易重要品目 本月上半並びに一月以降の累計に係る輸移出入主要品目を示せば左の如し

輸移出重要品(圓)

品名	本月上半	一月以降累計
米	九九五、九五〇	一八、八八四、六〇九
大豆及小豆	一一、四九七	八七、八六四
豆類	四一三、六四〇	三、五七五、三四九
鮮魚	九、七六八	一三一、二八一
乾鹽魚	四八、一七九	五七一、七二〇
人參	一一八、三五〇	一、二三九、九六八
棉花	一六六、四二四	四八七、一六二
金鑛	五、〇三三	八四五、八八〇
銀鑛	一六、五四三	四三三、三九三
黒鉛	一二、五八一	一七六、七八四
牛皮	三三三、六三一	二、七三三、八九七
生牛	一一、五六六	二八七、五三一
肥料	二二、〇九五	七九三、三五〇

輸移入重要品(圓)

品名	本月上半	一月以降累計
米	二、一一七	二九三、五一七
粟	四六五	七六三、五七三
小麥及小麥粉	二八、三六八	五八五、一五八
食鹽	四五、一七五	七三三、二一八
鹽魚	三、四七四	二三四、九〇八
砂糖及糖粉	五九、四五五	一、三〇三、五八〇
清酒	五五、五三二	六八〇、三八七
麥酒	三、七一六	四一一、〇〇一
石油	一三一、九八二	一、六〇三、九〇一
綿絲及打綿	四九、四九二	四九五、九二〇
綿織物	六二、一六二	二、〇八七、七二〇
生金巾	二五一、八〇一	四、九一四、四九八
晒金巾	一二六、九五四	一、七一〇、八九三
天竺布	二六、二四一	四二〇、八〇一
綿縮子類	一五、〇七三	二二〇、三二一
日本綿布	九一、九六三	一、六七二、〇六五
麻織物	一一、一五八	一、一七〇、五二八
毛織物	一〇、六五七	五一七、三二四
絹織物	五一、九四九	八三一、一九五
紙	五五、四九〇	一、三〇九、四六六
熟鐵	三六、五七〇	六九八、〇四二
鐵筒及管	七、七六五	二一三、四七八
軌條及附屬品	一、〇八四	七〇二、八七七
鐵道汽罐車	……	七八、一四六
煙草	一五、六四四	四〇二、六六三
石炭	八一、五七六	一、四九三、七八三
木材及板	五四、五七五	一、二七六、七五二
叺繩及莚	五二、五七〇	八一一、三二〇
セメント類	二三、四五六	五九二、七三九
マッチ	一六、六九八	四六一、〇五四

◎選擧名簿調製 選擧準備甚だ忙む

京城商業會議所の設立に關しては既報の如く京城日本人商業會議所に於て準備中なるが例の十二月十五日行ふ可き選擧も必ず行はるゝものと見做し廿日より選擧被選擧權者名簿の調製に着手したれば總督府より認可指令に接し次第直ちに會員の縱覽に供し得可き準備を整へ居れり

◎鮮銀の異動 大田氏の轉任

朝鮮銀行にては今回一部の交迭を行ひ十九日付にて左の辭令を發表せり

出納局長兼檢査役 司事 大田三郎
大連出張所長を命ず
營業局長兼檢査役 出納局長兼務を命ず 司事 高瀨梅吉
大連出張所長 本店勤務を命ず 司事 中村光吉

◎立花警務總長

大典參列中の立花總長は十九日夜京都發二十一日午前南大門驛著歸京すべし

◎大屋長官歸任

御大禮參列の爲め入洛中なりし大屋鐵道局長官は廿日朝歸京せり

◎京城協贊會理事會

京城協贊會にては二十日午後一時より京城府廳樓上に於て理事會を開き事務長以下事務員に對する慰勞會の件に就て打合す所ありたり

◎協贊會役員慰勞宴

京城協贊會長吉原三郎氏(代理金谷副會長)は十九日午後六時より喜久家に於て協贊會役員及び其他の關係者四十餘名のため慰勞會を開き頗る盛況を呈したり

人事消息

▲李完用氏(伯爵) 入洛中の處廿日歸京
▲本田幸介氏(農學博士) 同上
▲池田技師(土木局) 排水工事調査の爲め十八日京畿道金浦に向ふ
▲秋山雅之介氏(視學官) 學事視察の爲め京畿黄海平南北各道へ十九日出張
▲後藤瑞巖師 二十二日朝出發大邱專學會及釜山禪學會に臨み二十七八日頃歸山の筈
▲サーフランエルタイ(英國陸軍少將) 二十日朝八時半内地へ向け出發
▲李載覺侯 同日朝八時五十分著列車にて歸京
▲園田寛氏([illegible]) 十九日山本旅館へ

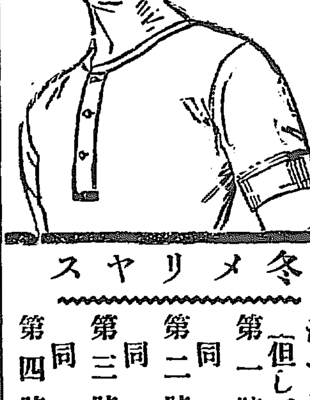
南言北語

▲英國の首相以下が巴里へ行つて英佛協同軍事參議會を開くと云へば▲カイゼルも敗けぬ氣になつて墺國太子と勃王とを伴つて君府に行つて獨、墺、土、勃の協同軍事會議を開くと相な▲其の間獨り活動して居るのは露國だ今の間に大に鬪奮すべしワルソー退却當時から待ち兼ねて居た露將軍も來たからナ▲金吾中納言をきめ込んで松尾山の頂で慾の皮の一點張りを考へて居た希臘は▲足許を蛇蝎の樣な獨探に引つ掻き廻され聯合軍側からはキッチナー元帥が目を光かして押し寄せて來たので愈々板挾みとなつた▲右が地獄か左が極樂か大分まご〳〵して來たらしい▲今迄國内を聯合軍が通つても知らぬ顏をして居たのが何と感ずつたか希臘領内に進入した聯合軍は武裝を解除せよと途方な事を云ひ出した▲國際公法の規定に基きなんて今更公法呼はりもないもんだ然らば初めにサロニカに聯合軍が上陸した時何故此の抗議を爲なかつたか▲馬鹿々しいにも程がある聯合軍たるもの最早其のお禮に一發の巨彈を送るが可い▲が、其れ丈けの元氣が聯合軍にあれば希臘に此んな不樣な眞似もさせなかつたのだらうにサテ〳〵▲獨墺は巴爾幹を握き廻して置て更らに埃及に手を出さんとして居る之れは當り前だ既に言子も云つて置た事だ今更ら驚く事もなければ怪しむ事も珍らしい事もない▲併し何だか兩國では頻りに又々媾和風が吹き始めた樣な▲今度は食料ではなくて人間の種が盡ると云ふから此奴はやり切れまい最もカイゼルだから人間が盡れば都をカイローへ移して黒奴を臣民にして阿弗利加迄で亂暴るかも知れぬ其の方が我てよからう▲祝融氏何の爲に怒る我社中は彼の襲來に遭ひしも倚ほ吾人の働くべき總てのものは幸に彼の毒舌を脱れた▲百折不挫の精神は社中同人を一貫して勤々たるものがある▲盤根錯節を試みずんば誰か日本刀の鋭利なるを知らんや社中同人のペンは更に諸君の前に光芒陸離たるものがあらう

百萬金を投ずるも健康は購ひ難し
蜂印香竄葡萄酒は
朝夕一杯宛にしてよく
身体の健全を保ち精力の增進を來す
何となれば 無限の滋養と其美味とは
すべて血となり肉となり力となる
内外國の最高金牌銀賞廿四個受領

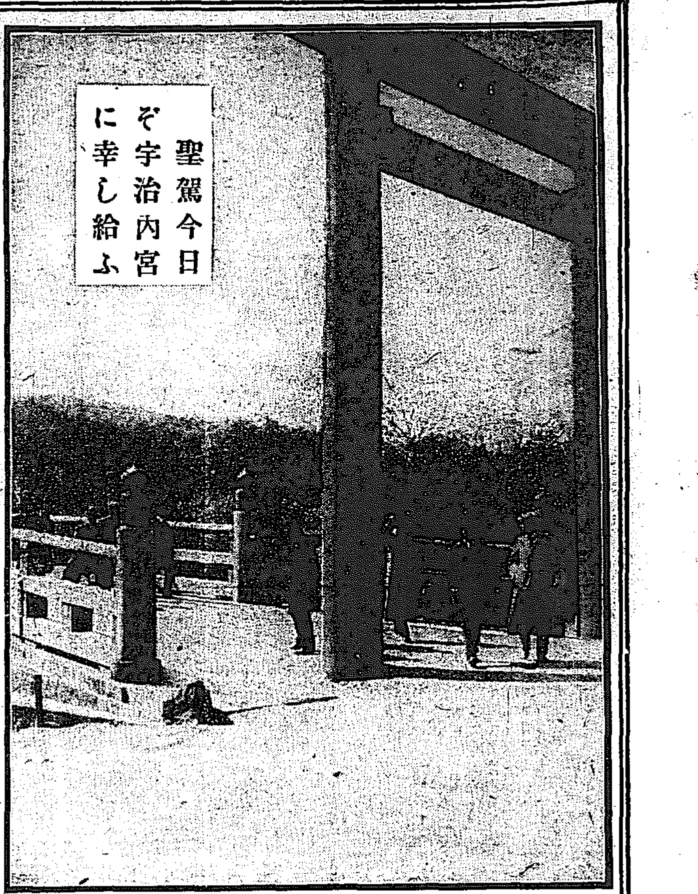
東京本町 製造發賣元 近藤利兵衛

朝鮮總督府裁判所書記 早川保次君編著
改訂增補 朝鮮不動産登記 朝鮮商業登記 申請書式並心得
再版
▲紙數四百八十頁。代價金壹圓。郵稅金拾錢
本書中不動産登記の部には土地調査に關聯せるもの及不動産登記法に依る申請書式、官公署の登記に關する囑託書式等併て百貳拾餘件並に印鑑屆、印鑑證明願、改印屆、土地變更事項に關する證明申請(京城府所定)委任狀、契約書、保證書、建物圖面及共同擔保目錄雛形等を掲て加之官通牒、登記に關する決議、實例等苟も申請人の參考と爲るべきものは擧て各書式の末尾に之を掲記し以て疑默を釋明し又商業登記の部には未成年者、妻、法定代理人、商號、支配人及各會社に關する申請書式等併て五十餘件を登載し且一讀何人にも了解し得へき程度に之を編纂せり土地所有者、不動産上權利者、會社、代書者必備の參考書たり
發行所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部


冬メリヤス
シャツ一枚に付(但しズボン下同値)
第一號 一圓三十五錢
同 第二號 一圓十五錢
同 第三號 一圓也
同 第四號 八十八錢
東京 塚谷出張店
京城本町
振替口座二九三番 電話一三六番

最上醬油
絕對的品質本位
鮮滿醸造界唯一の名譽
於始政五年朝鮮物産共進會
金牌受領
特許機械製 ほまれ味噌
醸造元 仁川港
日本醬油株式會社

●五十鈴川波音も靜に
今日の御幸を迎へ奉る


聖駕今日ぞ宇治内宮に幸し給ふ

聖上陛下には京都の大禮に引續き伊勢大廟に御親謁の爲め十九日宇治山田に行幸あらせらる神都四萬の官民は此千載一遇の御大典を祝ぎ奉らんが爲め先づ山田驛頭奉迎門は高さ十一間幅七間にて

▲色鮮かなる黄菊白菊を以て裝飾し又龍駕奉祝門を過ぎ行在所へと向はせらるゝ行幸道路は數月前より同縣土木工區の手に依り改修を加へられ御道筋に當る兩側の民家は悉く店頭に門松を立て注連を張り渡し廿日夜は神宮皇學館第四中學を始め市内各學校生徒在郷軍人等三千名の大提灯行列を催し先づ内宮宇治橋前に集合其より隊伍を整へ順路行在所前に到り縣地市長の發聲にて聖壽の萬歳を奉唱し更らに外宮神苑前に到り萬歳を唱へて解散、尚ほ當夜市内舘町裏山上には仕掛煙花にて『寶祚無窮』の文字を現すべく各町亦た思ひ／＼の奉祝準備に趣向を凝しつゝあれば御駐輦三日間の宇治山田市中は實に空前の盛觀を呈す又行在所の設備は去月來大禮使營繕部にて神宮司廳の一部に改修工事を加へ既に宗成を告げ御座所に充てまゐらす大宮司室は天井を栗茶色に塗替へ

▲燃ゆるが如き紅の牡丹の模樣を織出せる絨氈を敷詰め壁地は白鳥子紙を貼りて金色燦たる縁取をなし更に御召替室は瀟洒たる裝飾を施し大膳寮調理所、御湯殿、御厠等は新に增築されたり何分今回の神宮御親謁は御一代の盛典なれば御鹵簿を拜せんとする縣民は元より近縣より數十萬の拜觀者入込む見込にて警察部にては御警衛の爲め約七百名の警官隊を編成し三矢警察部長指揮の下に其々警備の任に當り更に第三艦隊司令官下の第六驅逐隊、第五十一驅隊より各一箇大隊の儀仗兵を出し又軍艦二隻は伊勢灣內津、四日市、二見の三港に假泊して御警衛申上ぐ

●東京に大地震が
來る前兆ではないか＝今村博士の説
安政の大地震から恰度六十年目だ

十二日上總一の宮附近に微震あり、つゞいて午前午後に亘り東京帝國大學微動計に感じたる微弱震は三十回の多きに達したり、恰かも今年は安政の江戸大震より六十年目に相當するを以て或は大地震あるべしとの巷説あり右につき今村博士の說に曰く十二日上總一の宮附近に微弱震頻發し多少警戒を加へたるが十三日限りにて其警戒を解かんと考へ居たる處又々十六日朝微震續發して

■今一應の警戒を要する事となれり十二日の地震群は氣壓下りたる退潮時に始まりて著しき副原因を有したりしが今回は氣壓は下降せんとし又潮水は昇らんとせる際に起りて副原因著しからずされば今日の狀態は頻度勢力の增大とは斷じ難きも亦直に衰退せりとも認むべからず

地震發生は副原因の消長に掣肘せらるゝものなれば觀測者は氣壓或は潮候にも注意し嚴密なる觀測を施行すべき時機たり此頃說あり今年は安政大震より六十年に相當するを以て或は大震あるべしと實際大地震

▲大噴火の統計には此六十年なる周期の見えざるに非ざれ共前の六十年目は安政元年三度の大震と同二年の江戸大震とによりて代表せられ更に其前の六十年目即ち今日より百二三十年前は安永の櫻島及び大島、天明の淺間、寛政の溫泉大噴火によりて代表せられたり然るに今回は淺間、大島、櫻島等既に大活動をなしたることなれば此等を今回の代表者と看做して可なるべきが故に此點につきては憂ふるに足らざるべし但し東京の如く附近に

■地震帶を有する地方は平日に於ても大震の發生萬に一もなしとは斷言し難き所なれども大抵安全なりとは稱し得べし唯今日に於ては形勢平日よりも稍進めるを以て百に一もなしとは斷言し難きも九分九厘までは安全なりこと稱し得べきが如し故に憂ふるに足らずとすべきも尚注意を加へて今後數日の經過を見るは無益の業にあらざるべしと

●警察に夥しい說諭願
寒くなると悶着が起り易い
係りのお役人も持て剩す

寒さが漸次引締まつて來るとかく生活難といふ奴が頭をもたげて何彼と警察の手數が殖えて來る殊に京城では土地柄薪炭泥棒などが多くなるのは是からである、質のよくない鮮童などは金屬製の鉤を手にして家々を徘徊し塀の破れや空屋の壁などを漁り廻り持つてゐる

□釣で引離して盜んだ木片竹片などを持歸つて溫突用の薪に供し或は家人の不在中を覘ひ割木の一束や炭の一二俵を掠つて逃げて行くものなど餘程多い、警察では早くも是等を豫防する爲め警官は見當り次第是等は沒收し嚴重に訓戒を加へてゐる、尙ほ日人民から警察に願ひ出る說諭捜索願保護願等は夥しいものである京城本町署管內は內地人の居住者が多いので內地や滿鮮各地方から願出て來る願が隨分多い其

□願の筋は千種萬別中には頗る悲慘な家庭の模樣をのべ內地の郷宅には六十七の老親と妻子とを遺して置きながら朝鮮に渡り一働きをやつた上送金するといふ意氣込みを以て渡つて來たもの、別に梱から牡丹餅のある譯もなく豫想が外れて鐚一文の送金もなし得ず歸國するには旅費に窮し其內無爲に月日を過し本人も吾身を持ちあぐんでゐる內郷里では家庭が愈窮し送金は愚

□一枚の葉書の便りもないといふ事が所在の分つてゐる分は親や妻から警察署に宛て同人の歸國方を說諭して呉れといふのが少くない或は國許では家の柱と賴む夫が不義の結果他の婦人と共に朝鮮に隨德寺を極め込むだとか或は內地で借金に窮し妻子を置き去りにし自分獨り姿を晦ましたとか或は家庭の不和から家に居堪らなくなり其連繫を避くる爲め

□親の金を拐帶して渡鮮したとか又は他の店に店員として勤務中不義理の結果其他に居られずなりて得意先の賣掛代金を取立て之を拐帶して落ち延びて來たとか或は朝鮮や滿洲で出來合つた內縁の夫婦が離縁話のいざこざとかで警察の手を煩はすとかいろ／＼の願出もある或は娼妓をやつて年期も明いたが金も送らず歸國もせず國の家庭では病氣か貧窮に泣いてゐる際本人は年期濟みと共に情夫と共に

□何れへか隱れて終つたから捜索方を願ふとか或は急に歸國せねばならぬ破目に陷つたから國元へから內地へ警察の手を藉つて願出づるものもある、或は夜逃げの爲め借金不拂ひの償で困るから說諭して呉れと債權者から願出づるものもある愁うした例を擧げたら隨分夥しいものであるが警察では其願意に依つて其れ／＼相當の所置を與へて面倒を見てゐる、爲に事情に依つて署員が幾分宛を義捐して惠んでやる事もある斯した種々雜多な世話事を施して貰つた當人は警察の恩義を忘れず禮狀を寄越して來る又は大切な長男が大金と共に警察のお蔭で取止めたと親から禮を述べて來るものもあると云ふ次第とかく其筋のお役人はこれからが忙しくなると云ふ

●冬枯れと女の行衞
十人十色の御註文のこと

共進會騷ぎに集まつたあれ程の京城の女は何處に行つたか、內地に歸つたか、田舍に出掛けたか京城に殘つたか、其れは

■玄人筋の周旋屋さへ知らないといふ、兎に角落付く處へ落付いたものでせうとの返辭、現に共進會目的で目論まれた多くの旅館飲食店の如きは一軒で數人の女を抱へて居たにも拘らず其處へ世話した女は一向歸つて來ない

■有繫朝鮮は女旱の國です哩と笑ふ、併し一般に周旋屋の忙がしいのは稲月から師走にかけての時期であつて堅氣な女中から仇な藝娼妓酌婦の如きに至るまで寒い冬枯れの頃に出入が多いのは爭はれぬ事實である、京城は有繫に朝鮮の首都だけあつて周旋屋の手に世話する

■女は朝鮮十三道の隅々までも及び遠く咸鏡北道邊の旅館から十七八歲の女中を一人欲しいとの御註文もあれば又木浦釜山邊りから京城を的に入込む女もあり現に女中候補者の如きは釜山よりも京城に多いところを見ると始めて內地から渡鮮する人々も一旦京城に足を留めるやうに思はれる、詰り京城は種々な種類の女の集散地であるといつて可い、中には夫婦共稼ぎの目的で渡鮮して

■亭主は下宿屋の二階に轉がり妻君獨り下女奉公して亭主に貢ぐ女もあれば又子供のある家窮屈な家庭を避けなるべく給料の高い處に行きたいとて始終諸方を渉り歩く橫着な女もある、併し何と言つても女でさへあれば何んな御面相でも就職難の憂ひは無く月給は普通五六圓を貰つて威張つて行けるが有繫に男の奉公口は鮮人に壓倒されて尠く下宿の二階にゴロ／＼する者が多いといふ

●狩獵列車初運轉

時季は正に好適の狩獵時季となり好獵家の天下とはなつたが鐵道局にては此際大に好獵家の便宜を計り臨時に狩獵列車を運轉する事となり二十一日の日曜を第一として當分の間每日曜日每に南大門開城間の運轉をなす筈である南大門發が午前二時四十分開城着が同五時十五分丁度開城發五時四十九分南大門着午後七時三十分と云ふ急行に間にあへば恰もいゝ時間であらう因に此臨時列車の南大門開城間著發時刻を記し附近獵場の便に資する

南大門發	午前二時四〇分
龍山發	同　二、五六
水色發	同　三、一六
一山發	同　三、四四
金村發	同　四、〇八
汶山發	同　四、二九
長湍發	同　四、四八
開城着	同　五、一五

●消防演習
廿一日奬忠壇にて

京城府內の消防隊秋季消防點檢及び演習は二十一日奬忠壇の廣場で盛大に擧行されることに決定した同日午前十時迄に本町警察署の警部並に龍山分隊の下士は消防主任巡査又は上等兵以下各所轄管內の消防組を引率して點檢場に出揃ひ係員の指揮に從つて一同整列し消防器具は平素の出動に準備してあるものを携帶し警務部の消防巡査は非番消防手を引率し蒸汽喞筒隊水管馬車隊水管車隊の三隊を組織し同じく點檢に參加することになつてゐる、午前十一時から警務部長臨場の上第一回の喇叭で指揮官の主任警視及び隊署長を隨へて順次人員及び器具の點檢を行ひ第二回の喇叭を合圖に左の順に演習を開始▲常備消防隊水管馬車操法▲消防組の接續喞筒操法▲第三回喇叭にて各隊組は點檢場たる警務部長の席前に整列▲警務部長の訓示▲府尹の演說▲第四回喇叭にて解散右解散後は消防出動に因んだ競技運動を五十回許り演ずる豫定である

●本町の小火

十九日午後十時頃京城本町二丁目三中井吳服店風呂場より發火し柱一本を燒きたる騷ぎに家人直ちに消止めたるが風呂の焚口附近に散亂しゐたる紙屑に焚火の燃え移りたるものなりと

●火鉢の作法
上女中心得草

▽客間と朝の掃除　何家でも客室は大概定つてゐますが是からは寒さが强くなりますから日當りのよい南向の座敷を選ぶが宜しい又客間の掃除は冬は兎角後れ勝になりますが成可く朝飯前に掃除をして良久開放して置いて新しい空氣を入れたいものです殊に前夜酒宴でもあれば酒の香が座敷に泌んでゐて朝の客に不快の感を與へますから尚更の事です

▽座蒲團と火鉢　來客のあつた塲合客を座敷へ通して置いてから座蒲團を運ぶのは宜しくない先づ座蒲團を敷き客の位置を定めて置いてから客を案內するのが順當です次が火鉢、お茶です火鉢には陰火でなく陽火即ち熱が强くて燃え上るやうな火を入れて出すのが冬の定法です

▽火鉢の置き方　また火鉢には丸と角と三本脚の獅子頭と三通りありますが丸と角の火鉢は持つ處の兩方を客の左右の手の位置に獅子頭火鉢は小笠原流では足を二本客に向けるのが法としてあります但し伊勢流では五德でも香爐でも二本脚の方向に倒るゝゆゑ客には一本脚の方向を向くべし火鉢も之に準ふと說いてあります

▽火箸の刺し方　火箸は丸火鉢には客の右手に當る處へ立てゝ刺し角火鉢には御膳に箸を置く樣に橫にして頭を縁に掛けます獅子頭火鉢には中へ直接入れて置くと燒けて熱くなる故下の臺に刺して置きます

▽炭火の入れ方　炭をつぐ塲合には改まつた時は必ず炭籠、雜巾、羽箒と火箸とを持つて出まして火鉢を下座に引き炭火の灰を落し新しい炭火を足して後羽箒で周圍を掃き其後を雜巾で拭いてから又元の位置に直します又昔の炭には油をひいて乾したもの或火箸で挾むと滑り落ちる心配があつたので正式には直接指で炭を摘みましたが今は其廢事は致しません但し茶の湯の時だけは古風を重んじて最初の炭は必ず指で扱ひます

●南滿事件成行
一は解決一は未解決

…が要求を容れ賠償金支拂、首犯者處罰、其他總てを承認し爰に無事解決…在奉邦人は一樣に甚だしく不安の念を懷き居れり殊に遼西事件に就いて遼瀋道尹を公署に訪問し遼西の南滿洲に屬する事を地理、歷史、公文書等…

●大典參列貴族歸鮮

李埼鎔（子爵）は十九日午後對馬丸に
韓昌洙（男爵）は同上
朴箕陽（男爵）は同上
朴齊斌（男爵）は同上
閔泳徽（男爵）は同上

…內商會より二千百圓の…にて建築を請負はじめたる協贊會內廣寒館の處分に就ては黄金町の…

天氣　晴一時曇　十一月廿一日

醇良清酒

仁川本町三丁目
増本酒店
電話一〇九番　振替京城六一九番

優等清酒

釀造元　福岡縣三井郡山川村　富安本店
發賣元　京城永樂町二丁目　富安京城支店
電話一〇三九番　振替口座四三九番

醫化學諸器械一式
Ⓚ
仁川本町　北島藥店　電話三三四
京城本町永樂町角　北島藥店京城支店　電話七六一番

藥種賣藥卸商

運動具は京城シノサキに有り

秋期カタログ進呈
京城本町二丁目
篠崎運動具店

最上醤油
京城本町三丁目
田中支店釀造
電話七六四番

…延墓堂爆彈投入事件は十四日の我が大官祭當日を以て支那官憲は全部我…るに至らず北京政府との直接交渉も如何に成行きしか頗る不明なる爲め…あらずと主張し努めて我が交渉を避けんとし此程三宅營口領事代理が榮…と云ふ本事件の解決を見ずに…任遲かるべし(大連)

●奉天情信

爵封令案畧決定=張將軍改任か=京奉路警備=國議復選延期 肅親王破産處分

▲爵封令決定か 上海に於て炸殺せられし鄭汝成の遺子鄭大が彰威候を承襲せしは帝政派が故人の勳勞に報ゆるものなれど爵封令なき民國に於ては洵に稀有の奇觀に屬せり之が爲め世間或は帝政實施以前に爵封令の出づるなきやを疑ふものもあるが中央官場の定説によれば依然として袁世凱氏登極後に發表せらるべく審議中なりし案は略下の如く決し居れりと

一、級別 王公侯伯子男とす
二、分等 王公侯伯子男各等を分ち王には親王及び王の別あり公は一等に止め侯伯子男は各三等とす
三、冠字 王公侯伯子男は之を區別せん爲め悉く冠字す
四、世襲 特別事故に因り褫奪せらるゝ外王公侯伯子男は世襲とし國體と共に替るなし

▲張將軍改任か 彰武上將軍張錫鑾氏は湖北赴任の途天津に至りて既に三箇月に及ぶも未だ起轅せざるが近頃に至り風説ありし通り直隸將軍に改任の希望を達したるやにて不日發表せらるべしと右に就き舊部下の奉天に在るもの此程來相踵いで天津に向ひつゝあり

▲京奉鐵路警備 段上將軍は既報の如く廿師が直隸省保定へ近く移防する事となりたるに就き之に代りて新民及び京奉鐵道沿線を警備せしむべく二十七師兵一團並に二十八師兵一團の派遣を命せりと

▲國議覆選延期 奉天に於ける國民會議覆選は來る二十日施行の豫定にて準備中なりしが此頃中央政府より無期延期命令達したるを以て段兼按使は管下各地に電報し初選人の來省を差留めたる由

▲肅王破産處分 目下旅順に隱棲せる肅親王が民政部在任當時の公私債は七十萬の巨額に上り各債權者は其返濟方を迫れるも要領を得ざる爲め數日來官憲に訟ふるもの多きに至り内務部は各債權者の訴狀を徴し法廷に移交破産の宣告を爲さしむることに決定せりと

▲袁氏推戴曉諭 既電の如く段鎮安上將軍兼巡按使は袁世凱氏に對し疾より大皇帝の尊號を奉り居りしが十八日附を以て奉天城の內外各要所に左の如き長文の袁推戴告示を爲せり
一、各省の國體變更投書既に二千を超えて皆君主立憲袁氏を大皇帝に推戴し以て民を水火の苦より脱せしめんとす省民は宜しく大勢に從ひ亂黨の煽動浮言に迷はさるゝなく立憲の精神を振作し中國の前途を一振すべし並に特に曉諭す聖上の雄才大略は戡亂定武功中原にあり四年以來保商愛民德澤五族に普遍し盛載せざるなし此時天首を歸して御宇を俟ち富國強兵を以て養以し吾民と根本の政治を謀り翹首して成るを觀諱々煕々長く太平を享けん

●祝意抑止事件

間島英人支那稅關長の無法

去る十日の御大典當日間島龍井村に於て間島支那稅關長ウイグラスなる英人が稅關員たる邦人寅栖寺幇辨岡本外班員の兩氏に向ひ職權を以て祝意の拘束をなせし事は既電の如くなるが今其の詳細を報せんに間島龍井村にありては日鮮人合同し遺憾なく奉祝の準備計畫を進め間島破天荒の新記錄を留めんとし何れも斡旋奔走日も足らず斯くて準備は漸く整ひ我が官民同胞は御大典期間各戶門松を建て注連繩を張り大提灯を吊り以て門飾とすべく決し居留民會は便宜上門松注連繩を各戶に配付せるが前記の兩氏も同樣配付を受け十日祝典の前日門飾りに著手したるに同稅關長は何故か之を懌ばず終に抑止するに至り國旗の掲揚のみ隨意に任かせたりと而して門飾抑止の理由は傳ふる所によれば稅關の宿舍に於ては其の自由を認めずといふにあるものゝ如きも他に理由の存するものゝ如し(間島)

●公州の初雪

公州にては十八日夜來降雪あり諸山白皚々たり

●木浦雜信

●鐵道と棉花及米穀● 先月中木浦驛に廻著したる棉花は四百三噸にして之れを昨年の同月中の四十七噸に比すれば殆んど十倍に達す玄米は二百十七噸にして其主なる送出地は長城八十二噸、松汀里六十五噸、羅州六十六噸等にして籾は八十五噸此の主なる送出地は全北泰仁の三十七噸、新興里十五噸、鶴橋十八噸、古幕院の十五噸等なりと ▲棉花廻著 其後●陸地棉其後の廻著は流石に旺盛なり搬出も茲一週日餘は多少の氣勢を殺ぎたるが如きも尙ほ木浦は本月九日迄三百八十九萬斤榮山浦は四十萬斤光州は四十八萬斤を算し尙ほ各地共相應の出荷あり光州の如きは既に現在に於て昨年總額の倍額に達し木浦も昨年十一月十日現在百三十四萬斤に比し二倍以上の增加にして昨今各販賣所にて買收濟の僞廻著未濟のものを合すれば殆んど總計六百萬斤に達すべく昨年の總累計六百四十萬斤と大差なき數量となれりと因に會社側にては棉價續々低落の報に接するより少なからず苦慮し居るが如し▲木浦府記念事業 當府廳にては府協議員會の諮問を經て記念事業費五百圓の追加豫算を決議し祥山洞新水源池附近に土地を買收し植林經營を爲すべしと▲店員表彰式 當商業會議所にては第三回店員表彰式を十六日午前十時公會堂に於て受賞者店主並に官民有志列席の上擧行せらる十箇年以上勤續銀時計受賞者鈴木大阪商船會社支店長外二名五箇年以上勤續者は七名にして夫々銀牌を授賞せらる

●元山より

▲賜饌拜戴式 元山に於ける賜饌拜戴式は十六日午前十一時より府廳構內にて擧行せるが饗饌會場の入口には大緑門を設け場內には清砂を敷き紅白段々幕を打巡らしたり賜饌者は百餘名上席者稻垣鐵道局出張所長賜饌拜戴並に御禮執奏の詞を述べ終つて一同謹んで賜饌を拜戴し再び稻垣氏の發聲にて陛下の萬歲を三唱し式を終了せり、尙陸軍側の賜饌は同日午前十一時より要塞司令部に於て行はれたり

▲官民の奉祝宴 村地元山府尹は十六日午後二時より元山府外三郡の賜饌者並に府內官民二百九十餘名を府廳構內に招待し盛大なる奉祝宴を開きたり、又官民合同大祝賀會は十七日午後二時より大芳樓庭園に於て開かれたるが來會者五百餘名、鳥井祝賀會長開會の辭を述べ稻垣氏の發聲にて陛下の萬歲を三唱して後祝宴及數箇所の模擬店を開き盛况を極めたり

●咸南の賜饌者

咸鏡南道に於て賜饌の光榮に浴したる官民は高等官五十三名、從六位勳六等以上の有位帶勳者三十五名、道參事三名、判任二等以上同待遇百三十名、地方名望家其他優遇者道長官の推薦に係かるもの內地人には元山鳥井貞三郞氏及び郡參事十七名其他內鮮人七名、在鄕將校三十七名、陸軍官衙に屬するもの高等官七名、判任二等以上十八名等なりと

▲下賜金と産業 過般朝鮮物産共進會に台臨あらせられたる閑院宮殿下より咸鏡南道に下賜せられたる產業獎勵資金の投途に就いては道當局に於て考究中なりしが殿下の優渥なる御趣旨に基き一般民に對し產業及び勤儉力行を獎勵すると共に下賜金は確實なる管理の方法に依り之れを永遠に保存し資金より生ずる利子は產業上特に功勞ある者を表彰し又た其他有益なる投途に充つる事に內定せりと

●連絡船上陸客

十九日午後釜山入港對馬丸二二等客
一等(十九名)李瑱鎔、李完用、李由佐、一任善準、閔泳韶、朴齊純、閔丙奭、李載覺、李址鎔、閔泳綺、朴泳孝、趙重應、閔泳瓚、外人一名 二等(十五名)福田左代吉、同妹、同令嬢、清水要三郎、本田幸介、大庭寬一、中野、安川伊吉、田中次郎、藤元弘光、同はる、福東也、高橋ひさ、國永喜十郎、伊賀元、由月商一、小林存俵、矢田新三郎(四十九名)

●赤心一片を讀む

廣江君の力の嚮音

○御即位式當日たる去る十日の朝突然廣江商會主廣江澤次郎君が編輯局に訪ね來て『恁んな物を拵へました何卒御覽を』と差出したのが『赤心一片』と題した一冊の本、それは近頃御奇特なと受取つて披いて見ると扨ても凄まじい武裝振り。

○先づ表紙の扉には記念切手に紫のスタンプを押した用意の氣の利いたこと、卷頭には題字として李完用伯が『自作他給』趙重應子が『新拓幸運』の文字鮮かに、續いては大隈首相を始め三宅博士、德富鎌田兩先生の序文で滿卷飾が施こされ感物共の心臟をして寒からしめる。

○著者自らの序文は廣江君が夙に懷抱し今日も依然渝らざる主義精神を赤裸々に吐露せるもので、何故に此著あるかの趣旨を表白せる一箇の宣言書と見るべきものである。『年壯氣鋭にして且直情徑行の私が一片耿々の赤心抑ふるに由なく隔靴搔痒の感ある日本煙草の發展策の爲め筆を呵したのであります』と言へる如く約二百頁に亘る此書は實に廣江君の緊張した精神と壯烈なる意氣の權化であつて言々句々總て是れ肺肝より出で讀む者をして拍案快を叫ばざるを得ざらしむる。

○本書は著者か內外の競爭者に對して苦戰奮鬪も亦足らぬ繁劇な境遇の中から過去一年有餘時に感じ折に觸れては筆を執り發表したる意見が積つたのを纏めたもので、閑餘の漫筆に非ずして一種の時務一家言である。

○卷中收むる所十餘篇、中にも朝鮮煙草界の實狀と對支發展策、滿洲煙草界の實狀と日本煙草の發展必勝策、日本種煙草發達の提選は何れも堂々たる大論文で、鮮煙をして對支發展の實を擧げしむるには協力一致を要し而かも民營業者に特別の任務を命じて支那全土に派遣し各地に假令小なりとも日本煙草軍の勢力を扶植し徐ろに鐵案とし且つ東亞煙草たる者は速かに朝鮮を統一し滿洲を奪ひトラストをして爲すからしむるに在りと斷じ、滿洲煙草界を論じては彼地の實狀を完膚なきまで解剖して東亞煙草が如何にせば滿洲に發展するを得べきやの方策を痛論して策は有り何ぞ斷行せざるやと勸說し朝鮮に於ける日本種煙草の發達を沿革的に說いては過去現狀に亘りて風波荒かりし朝鮮煙草界の本種煙草其材料の多方面なる懷中に物を探るが如く資料として値多きものと認められる其他隨感隨筆の項に於ても或は朝鮮煙草稅令を論じ對支發展の商策を說き英米トラストに對する抗策を絕叫し或は支那漫遊の所感を述べては急所を突き肺腑を抉るやうな熱烈なる意見に動く迄人をして首肯せしめねば已まぬ概がある

商況

李址鎔(伯爵)は同上

東京株式特電

二十日	前場寄付	大引
日本郵船	一一七、八〇	一一七、七〇
鐘淵紡績	一二五、〇〇	一二五、〇〇
新株上同	九七、四〇	九七、三〇
東株第一	一九〇、五〇	一九〇、二〇
東新第二	一五九、一〇	一五八、九〇

債券現物特電

二十日出來値段(前日との比較)		
東洋拓殖	六八、〇〇	―
南滿鐵道	二四一、〇〇	―

東京公債直取引特電

二十日出來値段(前日との比較)		
五分特別	八一、三〇	―
五分利公債	八〇、七〇	―
一回四分	九八、二〇	―

深川在米特電

二十日現在高	
朝鮮米	三一、三六七
内地米	六三、七八四
合計	一五二、五六八

東京期米特電

二十日前場	一月限
寄付	一三、六五
高値	一三、八八
安値	一三、六一
止め	一三、八八

大阪株式特電

種類	拂込	前日止値	二十日前場
宇治川水	四五、〇	―	一七〇、〇〇
神戸電鐵	四〇、〇	―	―
京阪電鐵	四〇、〇	―	一三〇、〇〇
和歌山紡	三五、〇	―	[illegible]
合同紡績	[illegible]	―	[illegible]
鐘淵紡績	[illegible]	―	[illegible]
同上新株	[illegible]	―	[illegible]
東洋紡績	[illegible]	―	[illegible]
大阪商船	[illegible]	―	[illegible]
日本米穀	[illegible]	―	[illegible]
東京新株	[illegible]	―	[illegible]
大阪株式	[illegible]	―	[illegible]

大阪三品特電

二十日前場	寄付	大引
十一月限	一一四、四〇	一一四、七〇
十二月限	一一五、七〇	一一五、五〇
一月限	一一六、一〇	一一六、六〇
二月限	一一七、五〇	一一七、六〇
三月限	一一八、八〇	一一八、一〇
四月限	一一九、〇〇	一一九、一〇

大阪期米特電

二十日前場	當限	先限
寄付	一三、一七	[illegible]
中限	一三、三四	―
止め	一三、八五	―

下關期米特電

二十日前場(時雨大湍覆)	當限	中限	先限
寄付	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高値	[illegible]	[illegible]	[illegible]
安値	[illegible]	[illegible]	[illegible]
止め	[illegible]	[illegible]	[illegible]

朝鮮物産特電

産地	相場	産地	相場
馬山改支	一二、一〇	釜山大豆	八、七〇
全州改支	[illegible]	慶山大豆	[illegible]
木浦改支	[illegible]	浦項改支	[illegible]
同特改	[illegible]	元山大豆	[illegible]
群山改支	[illegible]	城津大豆	[illegible]
仁川改支	[illegible]	長湍大豆	[illegible]
南浦改支	[illegible]	鎭南浦小豆	[illegible]
鎭南浦上白	[illegible]	仁川大豆	[illegible]
釜山中白	[illegible]	宣川大豆	[illegible]
鎭山上白	[illegible]	平壤大豆	[illegible]
仁川上白	[illegible]	群山大豆	[illegible]
仁川中白	[illegible]	木浦大豆	[illegible]
仁川並白	[illegible]		

雜報

●糖界の近況 大體に於て一段落を告げ下関の公判は未だ確定ならざるも新糖買出延期の運動開始されつゝあるなれば各地の折衝は…

●輸出契約成立 新糖一萬噸の輸出契約成立とし報へり

●米國輸入關税不撤廢問題

●織布類の昨今

●洋釘益々強硬

中旬前後米國品が四月…割安に約定行

百二十圓…一等品の警戒し初め…金巾

●麥粉は氣迷ひ 相場を釣上

●原料小麥の昂騰

●輸出約定の成立

●精米氣強し

十一圓七十錢乃至…地場賣競爭

●籾は出廻り薄 好勢

仁川米豆取引所仲買人 田中金次郎

下關相場

仁川米豆取引所仲買人 仁川海岸町三丁目 三巴梓買店 電話長三三、三六番

仁川期米 ▲二十日前場 跡九十八錢と高 移りに…七錢高に寄付…大阪八節十…四圓〇七錢と高移り

仁川現物市場

南大門廻着米

京城正米

物買狙 附値を高め地廻り

前場の商戰

市場零聞

▲前場沸騰す

前日の高値に顔合せ

人氣の動搖甚し

▲遂に上岐れ乎

▲標準米改正 標準米と夾物百分の三範圍格下げ十

▲反撥と其後

仁川米豆取引所仲買人 仁川海岸町三丁目 今村覺次郎 電話長三三七番 電略イヌ「イマ」

仁川米豆取引所 二十日の一月限

寄付	九圓三十七錢
高値	九圓三十八錢
安値	九圓二十四錢
止め	九圓三十七錢

前場	
出來高	二萬九千四百石

平均値段	
一節	九圓四十一錢
二節	九圓四十四錢
三節	九圓四十五錢
四節	九圓四十四錢
五節	九圓四十八錢

買取組	賣	
十一月限	五千三百石	
十二月限	二萬六百五十石	
一月限	四萬二千八百石	
出來値比較		

寄附	九、三一	一六高
止め	九、三〇	一八高
高値	九、三一	一九萬
安値	九、二七	一〇高

海蔣綿 吉行實傳店 振替口座京城三一五六番 電話長九一、二四二、三〇九 電略「コ」又は「ニ」

●北濱だより

●南滿新株 相場は一相の同一高…

◎御大典記念祝盃(御即位式當日の郵便局記念スタンプ押捺)
品質保險付
三ツ組(大直徑四寸 中同三寸五分 小同三寸)桐箱入 朱塗金蒔金蒔繪 壹組代金壹圓八拾錢(記念文字入)
壹千組を實費にて限り御込有之候に付至急三百組限り記念スタンプを受け實費金壹圓弐拾錢にて分讓可致候(送料荷造費共)御申越次第引替小包にて送る
京日仁川代理部 仁川濱町 電話二四〇番

内科 小兒科 入院隨意 京城日出小學校前 多々見醫院 院主 醫學得業士 多々見五郞 電話九四〇番

毛布 薄利多賣 京城黄金町二丁目 呉服店 丸一綿部 電話二三二一番 振替三六五 やまわかてらと

酒精アルコール直輸入元 仁川花町(電話六五〇番)電略(サ)振替口座京城五八三 坂倉伊平商店 京城吉野町一丁目(電話二四四一番) 坂倉伊平支店

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候 京城 朝鮮銀行 振替貯金口座京城三三三番 電話(園)三〇六、(遞)三三〇、一二六〇、一二六一 支店出張所 東京、大阪、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、奉天、大連、長春 右ノ外內外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

攝津灘 大塚釀造所吟製 金露 京城本町四丁目 發賣元 前田酒店 電話一三七番 振替口座四三番

内科 小兒科 入院隨意 京城明治町(元善隣學校跡) 中島醫院 院長 中島貞信 電話三七八番

報 (天氣) …

越後大評定

第四十九席　早川貞水口演

小栗美濃守の乘込

そこで小栗美濃守 美『其方先きへ出發て、福井城へ立歸り、何知らざる顔をして、御前を勤め居れよ 勘『ハッ 美『家の方は、如何に取計らつたか 勘『病氣と御屆けを致すやう申し置きまして御坐る 美『それにて宜しい、追付け美濃まかり出で、御諫言を致すであらう 勘『ハツ其儀有り難い仕合せ 美『寛緩休息いたせと申したいが、斯かる場合、早速引返してくれよ、御苦勞である 勘『恐れ入ります、福井城へ御乘込み、御諫言の程一日も早く願ひ奉る』涙を流して武智勘十郎、美濃守の御前を退ると、直ぐに夜を日に繼いで福井へ引返し、是で病氣全快の御屆をして、殿樣御前へ罷り出で、相變らず御近侍役を勤めて居ります、誰一人之れを知らなかつた、すると武智勘十郎御前へ罷り出まして三日目に至り ○『恐れながら申し上げます 忠『何事ちや、○『只今途中目付より致して申し上げますする次第は、高島城の小栗美濃守殿、當福井へ御乘込み相成と云ふことで御座います 忠『ナニ、美濃が參る、最早見えたのか ○『御意に御坐います、最早御城下に先供が乘込みまして御坐る 忠『ハテ不思議、此度の五重の天守造營に付ては、美濃が知る道理がない、何人か美濃の許へ知らせた者があるに相違ない、如何ちや ○『ハ、ハーッ』すると佞人が傍より △『恐れながら申し上げます、先程武智勘十郎病氣と主君を僞り、引籠り居りましたが、彼たしかに高島へ乘込、小栗殿へ此事を申し上げたに違ひ御坐いませぬ 忠『それに相違ないか △『どうも私考へますに、其事に相違御坐いませぬ 忠『ハ、ハツ……武智を呼べッ △『ハ、ハツ 武智氏殿が召します』勘十郎御前へ出て 勘『ハアー 忠『勘十郎、もそつと近う出え 勘『ハッ 忠『予は近頃易學に凝つて居る、其方の人相、手の筋を一つ觀て遣はす、是へ 勘『ハッ、是は恐れ入ります 忠『ナニ恐れ入らねでも宜い、左の手を出せ……出せッ 勘『ハーッ』恐る／＼左の手を擧げて、殿樣御前に出すと、グイッと其指を御握みになり、御引になりましたから、勘十郎前へ『恐れながら』とズッと辷つて出ました 忠『ム、其方の手の筋を見ると……ハ、ハテ其身はなか／＼宜しくない手筋があるぞ 勘『ハッ 忠『第一が不忠ちや 勘『ハーハッ 忠『其不忠の理由は、此忠直此度五重の天守を築き居ること、之を小栗美濃守の許に知らせたるは汝であらう 勘『イヤ、是は…… 忠『イヤ言はせぬ、ちやんと手の筋で分つて居る、其方など斯く善くない筋がある、其方ごとき不忠の臣は、予は嫌ひだッ』と仰つしやると、御小柄を拔いて、勘十郎の手の掌へブツ、御刺しになる、勘『ワーッ 忠『如何ちや、痛いか、痛ければ其不忠の心を改めよ、ムー『ハアーッ』と云ふと、其手の掌へ突徹ほした小柄の先から、バタ／＼ッと血潮が垂れる』

滋養大關 **乃木餅一箱** 十錢 五錢
京城壽館前乃木餅屋◯電二七五二番
滿鮮到る處の菓子店雜貨店にあり

子供の智慧づく 『日本幼年』 [illegible]

演藝案内

大正館 櫻井町 電話八七三番
十一月十八日より特別大寫眞提供 [illegible]

黄金館 黄金町四丁目 電話二六三七
天然色活動寫眞株式會社朝鮮一手代理店 [illegible]

龍光館 龍山停車場前 電話（龍山）四〇番 [illegible]

大正館大寫眞
京城日報運動ありし松之助得意の 舊劇 **澁川伴五郎**
東京俠妓の意地と義理を現せし 新派悲劇 **許嫁**
今回巴里より歸國せし藤本龍光を招聘大車輪にて御清覽に供す

壽座 本町 電話五七八 [illegible]

壽館 壽町 電話一〇五〇
十一月十九日より ○後藤三代記（吉田勝利）○東京落語即席問答（三遊亭圓松）○義烈白仇野狐三次（神田伯龍）○木村長門守（吉田虎右衛門）[illegible]

大正五年 國民日記

其の優美なる體裁は世界に卓越せる我日本の自然の如く─堅牢無比なる其製本は天下無敵の大和魂の如く─其充實せる内容が古今東西の智識を網羅して餘蘊なきは恰も日本の文明が世界のあらゆる文化の粹を拔きたるが如し─定價 四十五錢 郵税 八錢

内容見本

十二月二十一日　22─344

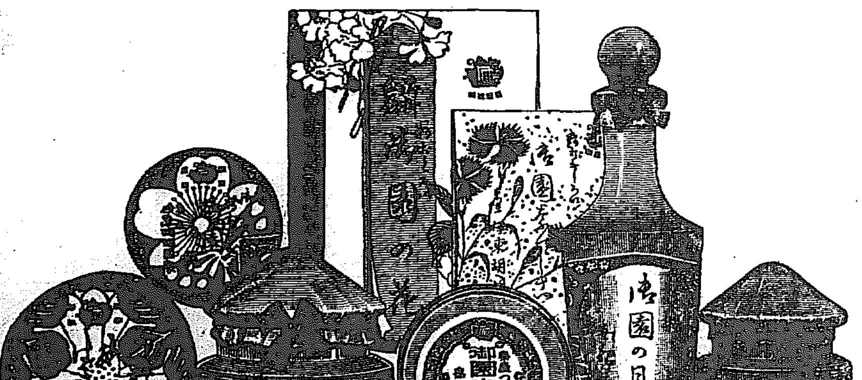
乙卯暦十二月十八日　戊午　土曜　一白　大安　【天赦】　【寒　聢】

□勝島蘆宗燒く（天明六）
□實業家村井吉兵衞生る（元治元）
□帝王の師と稱せられたる元田永孚歿す享年七十四永孚天資忠誠篤敬…（明治二四）
□海軍疑獄問題たるシーメンス事件暴露せんとす（大正三）
□英國ヴイクトリア女王崩（一九〇一）
ヴイクトリア女王の家庭教育…[illegible]

大賣捌所　京城太平町一丁目 振替京城三〇〇番 **京城日報社代理部**

御料 御園白粉

長く高貴の御料に召させ給ふ御園白粉は本邦無鉛白粉の先驅者として夙に怖るべき鉛毒の害を絶滅しもに良好にして品質附着伸張こして香氣も外國製品に劣らず多年の科學的研究と實際上の經驗に依り衛生上最も有効にして美容の目的に適ふ優良完全天下一品の稱ある化粧料なり



御園化粧品製造本舖
東京市芝區芝公園 電話芝七四一二・九九九 振替貯金口座東京七四六六番
伊東胡蝶園

御園化粧品發賣元
ミツワ石鹸本舖
東京日本橋區通塩町 電話浪花三〇四八・四四九・四五〇 振替貯金口座東京一〇七一〇番
丸見屋商店

家傳靈藥 ぢの藥
●痔疾一切●大重症之●脱肛●痔瘻●等現狀の儘家傳で靈妙藥有「ハカキ」一治癒する理由自宅治療法の書冊進呈す
●東京京橋區疊町 小松盛林堂

期米
定期米賣買之栞無代進呈
前金注文は紹介を要せず
大阪市北區堂島濱通二丁目 大阪堂島米穀取引所仲買人
正直 確實
入江商店
電話長一六五九・一七九三・二二九六

皮徽科
入院隨意（診察夜九時迄）
皮膚病 徽毒 淋病 膀胱 生殖器 機能障碍
日曜祭日午後二時迄
京城明治町二丁目（元町）
佐藤醫院（電話一一七三番）

亡妻靜枝葬送の際は態々御會送被成下候段難有御厚禮申上候也
十二月二十日
杉山文七

大阪商船仁川出帆

○中國四國沿岸各港行一割引を以て連絡切符發賣仕候
○外航所屬航路（遠洋航路を除く）へ連絡御乘船の時は五分引を以て連絡切符發賣仕候

○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行
城津丸 十一月廿二日 午後五時
汕頭丸 十一月廿六日 午後出帆
須磨丸 十一月廿八日 午後五時

○木浦、釜山、長崎行（▲は長崎へ寄港せず）
安東丸 十一月廿四日 午後二時出帆
▲天智丸 十一月廿八日 午後出帆

○鎭南浦、大連行
安東丸 十一月廿日 午後二時
天智丸 十一月廿八日 午後出帆

○木浦、神戸、大阪行
薩摩丸 十一月 日 午後五時

○群山、釜山、横濱行
△千珠丸 十一月廿六日 午後四時
△チヨイサン丸 十二月九日 午後出帆

○大連直行
千珠丸 十一月廿二日 正午出帆
チヨイサン丸 十二月三日

○清津、浦潮行（元山出帆）
▲は城津西湖津に寄港せず
久丸 十一月廿八日 午後三時出帆
宮丸 十一月 日
▲城津丸 十一月廿三日

○上海、基隆、打狗行（大連出帆）
基隆丸 十二月四日 午前十時出帆
湖北丸 十二月廿四日

御注意 ○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道聯絡と鐵道の各驛連絡切符發賣仕候 ○貨物通し運送も取扱仕候 ○×印は一等客御斷り○印は一等客御斷り

仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二三番 二〇番 五三〇番
京城切符發賣所 内國通運會社支店 電話七八〇番

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸 十一月廿四日 後四時出帆
君が代丸 十一月廿八日 後四時出帆
神代丸 十一月 日 後四時出帆
大有丸 十一月廿一日 後五時出帆
○第二太湖丸 群山、大阪行 土海丸
仁川海岸通一丁目 電話五十九番 商杉回漕部

阿波共同汽船仁川出帆

○支那芝罘、大連行
共同丸 十一月十一日 後二時入港 十一月廿一日 前九時出帆
大阪にて南海主要港に寄港し別府行定期船に連絡し直通運賃にて旅客貨物を取扱仕候

第一阪鶴丸（元山出帆） 城津、清津、浦潮行（元山出帆） 十一月 日 後九時出帆
第三共同丸 西湖津沿岸各港を經て雄基行 十一月 日 前八時出帆

阿波國共同汽船株式會社 本町一丁目 電話一〇八番 仁川代理店 山下回漕部
登日町（電話二四七番）元山代理店 田口回漕部
南大門通（電話二八〇二）京城取次店 阿村運送店

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行 小倉丸 十二月十四日 後五時出帆
○元山城津浦潮行 小倉丸 十二月二日 後十時出帆
○門司、神戸、大阪行 立神丸 十一月卅日 後五時出帆
○元山、清津、浦潮行 立神丸 十二月九日 後十時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、清津行 第三舞平丸 十二月一日 後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三舞平丸 十一月廿三日 後六時出
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 天長丸 毎月二日九日十六日廿三日 午後十時出帆

釜山本町 大池回漕部

朝鮮郵船

京城出張所、代理店の外京城東大門外、南大門、鐘路の各店にて取扱ひ申候

○全羅丸 十一月廿四日 釜山發
○京畿丸 十二月四日
○咸鏡丸 十二月八日
（釜山、各港寄港…）
○穩城丸 十一月廿九日 元山發
○昌平丸 十一月廿三日
○新成川丸 十一月廿五日 元山發
（元山より各港經由雄基行）
○平壤丸 十一月廿七日 元山發
○忠清丸 十二月五日 元山發
（盛津、清津、雄基行）
○永興丸 毎月廿八日 元山發
○咸鏡丸 十一月廿七日 釜山發
○江陵丸 毎月 日 （釜山浦項）發
○三浦丸 十一月廿二日 釜山發
○海州丸 巨濟丸 毎 日 釜山發
○慶州丸 慶興丸
○龍天丸 三日目毎 木浦發
○慶興丸 十一月廿八日 木浦發
○公州丸 十一月廿三日 木浦發
○公州丸 十一月廿六日 木浦發
○宗信丸 十一月廿六日 仁川發
○江原丸 十一月 日 仁川發
○晋州丸 十一月廿二日 仁川發
○全州丸 十一月廿七日
○南陽丸 毎日午前 仁川發

朝鮮郵船株式會社 本社 電話長一九五三番 二三三 松原運送店

日本郵船仁川出帆

○大連、秦皇島行 三河丸 十二月十一日 午前六時出帆
○大連、太沽行 相模丸 十一月廿三日 正午出帆
高砂丸 十一月三十日 正午出帆
仁川海岸町一丁目 堀回漕部

京城日報

第三版

二十一日朝刊 (第二千九百四十九號)

▲二十日後場(賣買紅勢)

…一三、一〇 一三、一八 一三、七五 一三、一三 一三、二六 一三、八〇…

…七錢六錢七六錢五錢…

▲後場の商戰 (九吉)二千石

…に下はひけ…和睦の一巡するや買物現れ七錢と返し六錢と散會

▲遂に上放れ乎 前場强硬の…

…石賣二百石買(金…)千二百石買八百石買(九十)四百石賣二千五百石買…

…硬なる裡に…振り合であるも相場は大阪の出直り來りたると正米の好況を受けて上放れしたる…

大典感銘記

▲總て世界的也

島田衆議院議長謹話

御大典に參列して余が最も感銘したのは其の內容といひ其の裝飾といひ總て世界的であつたことである大饗に於ける夜宴の儀は雄大にして華麗なる所眞に大正の御代を現はせるものであつて第一日の大饗の素朴典實太古の俤あるのと比べて實に好箇の對照である、其れから余の最も欣喜に堪へなかつたのは聖上陛下の御健康である曩に弘前地方に大演習のあつた時同地方の冷氣は昨今の京都より烈しく而も雨さへ降り續いたので、御健康の程如何あらんかと宮內省の大官などは御大典を眼の當り控へ居れば御統監中も成る可く御靜養あらせられんことをお願ひ申上げたるに 陛下には軍國のことは一日も忽にすべからずとあつて遂に御採用なかつたと承る、當時陪觀の榮を得べく弘前に在つた余は此のことを親しく某大官から聞いて感淚に咽んだ次第である、其れから引續き今度の御大典で十日に涉る御儀式に 玉體倍々御健かなるのみならず十九日よりは神宮御親謁を始め神武天皇外四陵に御親謁の爲め鹵簿を進めさせ給ふのである皇室の爲め國家の爲め日本國民として誰か謹賀しないものがあらうか

▲外臣感嘆せり

柳田貴族院翰長謹話

古雅なる音樂に連れて萬歲樂が始まると吾れ知らず椅子を離れて立ち上つて見惚れた者もあつた舞樂が濟んで參列者が休憩所に退つてゐると周圍の帳や壁が極めて短時間の間にスル〳〵と一齊に落されて四十間四面の大饗宴場が眼の當りにパツと展開された其手際の冴に外國使節等も驚きの眼を睜つた此夜宴に參列したものは千九百八十八名を註されたに拘らず非常に靜肅であつたのには外國使臣も一方ならず感嘆した樣子であつた

▲文の舞武の舞

三上文學博士謹話

大饗夜宴に召されて吾々は食堂に行く前に萬歲樂と太平樂とを拜觀した舞樂殿は一時的の建物であるがあれ程立派な所を嘗て見たことがない吾々は玆に日本が隆々として興りつゝあるを見得たのである萬歲樂を文に屬するものであると謂ひ得べくんば太平樂は武に屬する舞である何れも昔から朝廷で慶賀の時に用ゐられたものであつて幽玄神秘を極め見るからに襟を正さしむるものである、昔寛永年間後水尾天皇が此二條城へ行幸遊ばされ德川家に於て善美を盡くして御接伴申上げたので世間では豐公上洛の饗宴よりも盛大であつたと噂し合つたが今回の大饗宴は抑々以て其れどころでなく二條城初つて以來の盛大無比の御饗宴であり我が日本の隆盛窮りなきを表徵して感淚そゞろに流るゝを覺ゆるのである

御親謁あらせらるゝ 伊勢大廟

內宮(上) 外宮(左) 二見ヶ浦(右)

▲極めて調和す

武田工學博士謹話

自分は夜宴の儀に參列して親しく自分の研究的立脚地から拜觀して感じた所がある、大饗宴場は純日本式の建物であるが併し中には可なり西洋趣味を加へた所がある、晝間天井を仰いで見ると隨分濃厚に色彩が施されてあるが偖て其れが夜宴となると正裝大禮服の金モールに包まれては居るが電燈の光が反射して建築內部の裝飾が打勝つといふやうな事は少しもなく極めて調和して居た大宴場の金モールが丹塗の舞樂殿を取卷く中に古式の舞が行はれるので一寸考へると調和しさうに思はれないが是またキツシリと調子が整うて居た、要するに夜宴の儀の日本式建物の中に西洋式の大禮服を容して極めて古い舞樂を行ふといふ困難な條件が伴うたに拘はらず尙且あれだけの調和を保つて莊重でそして華麗な感じを與へたのは甚だ結構なことである

功勞表彰 (八)

敎育 京畿道 金貞蕙

明治四十二年附近の女兒七八人を募集し自宅に於て之れが敎授を開始せしが翌四十三年生徒數八十名に達し同年八月認可を受けて私立貞和女學校を設立して邑內に於ける君子亭を修築し其校舍に充つ、爾後專ら私資を投じて事業の經營に力め生徒數亦漸く多きを加へて大正四年度には其在籍百七十九人に上り、設立者として出資する所の金額年々六百圓を超ゆ、又常に朝鮮敎育令の趣旨を體して內容の改善に努力し孜々として倦まず、一般母姉の信賴を受くること極めて篤し、斯の如きは實に朝鮮人中稀に見る所にして女子敎育上其効績甚だ顯著なりと謂はざる可からず

海運及び衞生 仁川府 丁致國

氏は夙に文明的交通機關配備の必要を鼓吹し朝鮮に於て汽船を運航せしめたる先驅者にして爾來辛苦經營地方の開發に努め、一面多年郵便物の無賃運搬を爲せる等其功勞極めて顯著にして寔に他の模範と爲すに足る今其推賞されたる要點を擧れば如左

一、舊韓國時代海運事業甚だ幼稚にして旅客交通及び貨物運搬上大に不便を感ずるの秋に當り率先して沿岸交通機關施設の必要を唱道し、明治三十一年一月日本人所有汽船を借入れ、先づ東沿岸の航路を開き次で同志を糾合して一汽船會社を創設し同時に航區を擴張し船舶を增加して以て朝鮮全沿岸島嶼間の航海を爲し爾來刻苦精勵、孜々として貨物運搬並に旅客交通の利便を圖れり

二、舊韓國政府の命令に依り光武四年(明治三十三年)頃より無料郵便物を運搬したる由にて引續き統監府時代に入り更に命令を辭退して郵便物の無料運搬を爲したり、政府より何等の補助を受くるにあらず、又他に何等の報償を求むること無く而も航運の業萎微振はざる過渡期に於て能く奉公の意を捧げ、前後十五年に涉る長期間終始一貫して郵便物の無料運搬に從事したり

因に同氏は大正元年中鮮人衞生上の改善及び貧民の救濟を目的として仁川保健組合を設立し、醫を聘して癩病者に施藥し多數窮民の救濟に盡瘁する等奇篤の行爲尠からず爲めに鮮人側に於ける德望家として一般の尊敬を博し居れりといふ

京城雜筆

山縣生

▲過日藝術座の『剃刀』劇に對し不平を述べたところ、君は頭が古いから駄目だとあちらこちらで叱られた僕の頭は半白ではあるが、別に丁髷に結つて居るではなし、古い譯は無い筈だが、妙だな

▲頭の新しい人といふのはどんな人達だらう、ロクに西洋の本も讀むことも出來ず、間違ひだらけの反譯か何かで北歐文學の片端を覗ひ、現實だの、解放された生活だのと譯も分らずに騷いで居る連中なのであらう此やうな連中から仲間に入れられぬのは入れられぬ方が名譽である

▲頭の新しい諸君は、諸君の珍重せらるゝ所謂新しい劇や文學が本家本元の西洋で、今如何なる取扱ひを受けて居るかを知つて居らるゝか、西洋の新聞雜誌を直接に讀むことの出來ない御連中であるから、御存じあるまいが、あれは疾くに流行遅れになつて居る

▲西洋では一時文學藝術があまりに舊來の型に捉へられて、此上に進境を見出すことが出來難いと思はれた爲め、文學者藝術家が所謂新しい試みをやつて見た、これが新奇を好む人儕に投じて一時多少の流行を見たのであるが、元來高い理想も、深い根底もないから、暫くにして捨てられた、其が此兩三年我國に輸入されて、譯も分らず無暗に新しがる一部の靑年に持て囃されて居るのである

▲恰度東京で何か流行すると一兩年の後それが田舍の若い衆の間に傳つて、其連中がそれを摸ねて、東京では疾にそれが廢つて居るとは知らず、頻りに新しがつて居るのと同樣である、笑止千萬とは此事だ

▲大抵のものは新しいのが好い、着物は殊に新しいのに限る、然し新しいが爲めに價の輕いものも無いではない、葡萄酒の如きは一例であるが、所謂新しい女と男とに至つては其價が零である

▲論より證據、昨今東京に於ても既に所謂新しい文學や藝術は廢れ始めて、之を代表する病的男女は慘めな狀態に陷りつゝある、岩野某夫婦の昨今は何といふ狀態であるか、劇界に於ても新劇は次第に窮迫に陷つて此寒空に朝鮮くんだりまで出稼ぎをしなければならない手合もある、氣の毒な次第だ

▲それに御氣が附かず、此京城の一隅で無暗と新しがつて喜んで居る方々の御稚巧なのには我等頭の古い者が唯驚く他はない

第一期會員募集

時代に後れざらんとする者は速に本叢書に來れ

內容規定 御申込次第直に進呈す

會費每月壹圓宛 入會金貳圓(會費に通算す)

一時拂前金拾圓 十冊

入會 十一月日限

蘇峰 德富猪一郎監修 東京帝國大學法科大學敎授 法學博士 吉野作造編輯

現代叢書

目次 配本月

雷 南洋 大正四年十一月發行
歐洲大戰 大正四年十二月發行
極東の外交 大正五年一月發行
婦人問題 二月發行
現代米國 三月發行
獨逸藝術(平民) 四月發行
新主義 五月發行
滿蒙 科學 六月發行
最新の學 七月發行
新東の民族 八月發行
極東の經濟問題 九月發行
(近刊) 十月發行
十一月發行

▲郵送料本社負擔▲

大賣捌所 京城日報社代理部 京城大平通一丁目 振替京城三〇〇番 電話六六〇番

新元氣を振起して聖德に答へ奉れ

實業之日本

□優勝者たる道 浮田博士
□久原房之助に一喝…實業和尙
□野口博士我靑年へ置土産す
□是れでも貧乏人か…鈴堂
…河野廣中は一年に一千五百萬圓の富を運用して居るに誰が知るか…

大典こ國民の新精神

增田社長 新渡戸博士 早川千吉郎 添田博士

□早稻田大學の新學長 □僅の學資で高給の取れる學校(附加冠者)
□責任は死よりも重し 白露生
□壯烈なる一船長の大悲慘的美談…秋冬の候痩せた人の肥る法…織田學士
□廢物利用農家の福音

十一月十五日發行拾錢(郵稅一錢)半年壹圓七十錢一年貳圓 實業之日本社 振替三二六

子供之友

十二月號出來

▲イサマシイ觀艦式 北澤樂天
▲忙レイサンタクロース 竹下夢二
▲應神天皇ゴタンジヤウ 北澤樂天
▲ゲンキナ子供ノ顏 岡本歸一
▲モウ幾ツネルトオ正月 北澤樂天
▲オモシロイキリヌキ繪 佐久井
▲怠ケ者ノ節句バタラキ 羽仁もと子
▲天人ト歌ヨミノ話 河井酔茗
▲母アザラシト子アザラシ 松岡八郎
▲寒ガリ丙子ト下太郎 ポンチ
▲ミカン ギンカンオレンヂ レモン 岡本歸一
▲飛ブモノ走ルモノ 子供の會

定價金拾錢 郵稅一錢 半年六十錢 一年一圓廿錢

婦人之友社 東京雜司ヶ谷 振替東京一六一〇〇

十二月號出來 改正定價金拾錢

新少女

少女は何うしても親や先生の仰しやる通りにならなければならないものでせうか 羽仁もと子

繪小說 大きな蝙蝠傘 竹下夢二

モウぢき正月が來る(口語詩) 河井酔茗

少女家事 炭のつぎ方 少女料理 牛鍋のしかた 記者

叱られた經驗 少女數十名の異常に無邪氣なる告白

▲本を讀んで… ▲單を見失ふ… ▲反物を落す…
▲翌朝になつて… ▲死家出… ▲口やかましい母
▲花盜人… ▲お昼中に居眠… ▲だらしなく…
▲便所で唱歌… ▲廂に上つて… ▲横着と思はら… ▲叱り方の違ひ… ▲口惜しさに… ▲秋雨の降る夜… ▲今年の泣き初め

婦人之友社 東京雜司ヶ谷 振替東京一六一〇〇

○神宮御親謁（山田特電）

天皇陛下には二十日伊勢神宮に親謁あらせられたり當日は午前三時より神前設備次で御膳祭あり七時より久邇祭主宮の奉幣あり陛下には九時行在所を出御拜觀者の間を鹵簿肅々として外宮に御著御座所に入らせられ齋戒沐浴の上黄櫨染の御袍立纓の御冠見るも神々しき正裝に御召替へあり十時五十分板垣御門に馬車を進めさせられ廿三間の廊下を正殿に進ませられ供奉の人衣冠單衣正裝制服を著け大嘗祭に於ける悠紀主基の時と同じく唯御劍箱を捧ずる侍從一名を增したるのみ　陛下は掌典長の捧ぐる御告文を奏させ給ひて御拜あり正午終了皇后陛下御代拜あり　陛下は二時五十分行在所に還御あらせられたり

支那帝政問題

▲帝政前途益々暗澹

青島籠城軍人の煽動と籌安會の宣言配布

支那當局は五箇國の警告に對し帝政延期の旨回答せしが北京に於ては彼の青島籠城軍に參加し當然捕虜となるべき獨逸大佐デンケルマン及び同ケーニッヒ大尉の如き暗々裡に大活動を試み獨逸は支那の帝政を贊助すべしと說き頻りに帝政派を煽動しつゝあれば一部日支親善を謀りつゝある者は大に苦心し居り又た要路者中には今尚ほ舊式外交を夢み竊に英米露獨等の公使を籠絡せんとする者も現はれ中には帝政延期は五箇國警告とは何等關係なきものなりとさへ主張する者あり殊に籌安會國體請願聯合會の如きは今日に至り突然國體問題は專ら內政に屬す他國干涉の理由なし外國の報道は誇大にして信ずるに足らず豫定の各事は進行しつゝありとの宣言を各省に配布せり要するに帝政の前途は益々暗澹たるものありて今の所容易に之れを見るべからず（北京特電）

▲支那を協商國側に

引入れんと英佛露の運動

米國聯合通信社華盛頓來報に曰く英佛露三國は日支兩國の軋轢を與よ限り避けしめ極東の平和を維持せしめんが爲め支那を協商國側に引入れんとして極力運動中なり但し支那の軍事上の參加に關しては期待し居らずと（紐育電報）

○大禮後の艦隊編成替

第三艦隊の勢力增加されん

海軍の艦隊編成替は例年十二月一日を以て之れを行ひ來りたるが本年は御大禮觀艦式あるを以て特に同月中旬頃之れを行ふに決定せり而して今回の編成替中特記すべきは從來第三艦隊（南支那方面警備）の勢力は第一第二兩艦隊より優に劣勢なりしも昨年來の經驗に鑑み之れが勢力を增加せしむると共に司令長官を置くことゝなれり（東京特電）

○大觀艦式

御召艦其他決定

特別大觀艦式御召艦は筑波に供奉艦は常盤、滿洲、矢矧の三艦に指揮官の乘艦は扶桑に決せり同時に參列艦艇百二十五隻（總噸數六十萬五千三百八十）の艦列發表されたり（東京特電）

東京發別電

▲大藏[illegible]好況 英國の大艦[illegible]

[illegible]は支那溫州沖に於て米國旗掲揚の船に遭へりと[illegible]

[illegible]隊は北海に現はる近く英艦隊との大[illegible]會戰あるべし

○大觀艦式諸官

來月四日東京灣に於て擧行の大禮大觀艦式指揮官並に參謀長以下左の如く仰付けられたり

特別大觀艦式指揮官　海軍大將男爵　片岡七郎
同參謀長　海軍少將　武田　勇
第一艦隊司令長官　海軍中將　吉松茂太郎
第二艦隊司令長官　海軍中將　名和又八郎
第三艦隊司令長官　海軍中將　財部彪

之れと同時に各戰隊、水雷艦隊司令官も仰付けられたり（東京特電）

○收容人員 大觀兵式

來月二日青山練兵場に於て擧行せらるゝ御大禮觀兵式は今や準備全く成り啻ならず施工すべく當日の收容人員は既報參加部隊の外陪觀者三千七百人拜觀者三萬三千七百人在鄉軍人三千四百人の多數に上り在鄉軍人會の儀旗のみにても六千餘旒に達し一般拜觀は殆んど不可能にして來る三十日皇族の台臨を仰ぎ豫行觀兵式を行ふことゝなれり（東京特電）

○豫算內示會 開會

政府にては議會開會目睫の間に迫れるを以て來る二十五日午後一時より首相官邸に貴衆兩院各派代表議員を招待し豫算內示會を開會する筈也（東京特電）

○山東鐵道成績 明年度より擴張

山東鐵道最初の收入は一箇月五六萬圓に過ぎざりしも最近二十萬圓內外に達し假に同鐵道經營費十七八萬圓を控除するも尚ほ二三萬圓の剩餘を生ずる始末なるより吾が軍政署は更に線路車輛及び洪水被害箇所の修繕を完うし明年度より獨逸經營時代以上の成績を擧げしめんとて該費用を編成し今期議會に提出すべく此の程大藏省に回送し來れり（東京特電）

○李堈公の東上

李王家を代表し大禮に參列せし李堈公殿下は來る二十三日午前八時四十分東京驛著上京帝國ホテルに入る由（東京特電）

○大隈首相歸京

大隈首相は夫人其他家從等同伴十九日午後八時半東京驛著汽車にて歸京せり尚ほ伯の病氣は差したることなく濃を去れば數日にて全快する由にて目下面會を謝絕し專ら靜養中なるが頗る元氣なり（東京特電）

○五大臣の歸京

京都滯在中の武富藏相は二十日午前八時四十分、箕浦遞相は同九時、加藤海相は同九時三十五分、河野農相は同十時三十五分、石井外相は午後八時半何れも東京驛著歸京せり（東京特電）

[illegible]れば袁世凱氏は國體決定後皇帝候補者二名大統領候補者三名を推さんと[illegible]

[illegible]月中石油[illegible]移入は六千百九十二圓にて前月の三千二萬八千八百三十八圓[illegible]

[illegible]口用として大阪其他內地より多少の移入ありたるに過ぎざるに基因す實[illegible]

[illegible]百八十八叺白米二千四百六十[illegible]四叺大豆二萬一千五百十七叺小豆一千二百[illegible]八叺小麥四千八百九十叺粟子八十五[illegible]

○日置公使北京著

日置公使は十九日夕北京に來著せり（北京特電）

○水口事務官任命

廿日總督府道事務官水口隆三氏に對し左の如く任命ありたり（東京特電）

任朝鮮總督府道事務官　水口隆三
朝鮮總督府事務官（五等）

雜報

○農技會議諮問

二十九日より向ふ一週間總督府第二會議室に於て開催さる可き道農業技術官合同に對する諮問事項如左

一、道獎勵に係る稻籾、大麥、小麥、裸麥、大豆小豆、粟、甘藷、瓜類等及其他の各種耳品種普及の計畫
二、淘汰せる水稻の栽培成績及び今秋に於ける水稻選種並に水田稗拔實行狀況
三、米穀乾燥調製改良に關する獎勵計畫及び其實行狀況
四、陸地棉栽培地に於ける棉作組合の改良發達を期する方法
五、實驗上より得たる適切なる桑園增殖の方法
六、蠶種製造者取締狀況並に其成績
七、桑苗製造の生產額並に其需要狀況
八、牛畜種規則に關する計畫及實施狀況
九、交通不便の地方に於ける牛骨角蹄等の收集移出する適當の方法
十、南鮮に於ける北鮮產種牡牛の成績
十一、種雞以製產獎勵計畫及其實行成績
十二、改良農具供給の狀況
十三、各地主會の經營支辨及共各員の負擔額
十四、農事講習生及傳習生の修了後に於ける狀況及從來の指導方法

○鮮銀の滿洲發展

大田氏轉任事情

朝鮮銀行が今回一部の交迭を行ひ其結果として出納局長兼調査役大田三郎氏が大連出張所長に轉任せる事は夕刊所報の如くなるが同行此度の異動は頗る重大なる關係事由の下に行はれたるものにして即ち近き將來に於いて朝鮮銀行が一層目醒ましき活躍を滿洲方面に試むべき前提なりと見るを得べし從來鮮銀の滿洲に於ける活動は甚だ見るべきものあり大連奉天長春安東縣四平街開原等の各出張所派出所には何れも新進氣鋭の人材を配して彼の正金銀行を始め正隆其他內地側銀行の勢力の間に伍して金本位紙幣の流通をして今日の如く盛ならしめたる功は沒す可らざるものあり而かも近時日支銀行案と謂ひ滿蒙銀行問題と謂ひ鮮銀の立場として必ずや大に計畫すべきもの有り先般に計畫を立てし故市原總裁の如きは逝去前東京に在りて右等の諸問題に付き頗る識者の間に力說し一大勢力を形作り居たりしが不幸にして長逝したれども總裁の遺志は尙ほ儼存し同行幹部に在りては目下頻りに滿洲に對する方策を研究中なるが同方面の紊亂せる幣制改革問題の如きは須臾も閑却す可らざるものあり今回重役會の決定に依り豫て鮮銀の滿洲發展策の總參謀として滿洲に於ける經濟事情に精通せる大田三郎氏を大連出張所長に任じて縱橫の手腕を振はしむる事となれる次第なり而して大田氏は現在は出張所長として赴任するも實は滿洲總支配人の資格を以て赴くものにして大連出張所も近く支店に變更する豫定なりと聞く

○終始鞠躬如として

鐵道局長官　大屋權平　謹話

野人禮に嫻はず唯事なかれとのみ案じ乍ら終始鞠躬如として參列拜觀したのだが式祭中は唯畏み畏んで拜し奉つたのだが何と云ふ譯もなく難有く感じたのみで後で何彼と思ひ起して成程彼の時はあゝだつた其時はさうだつたと思ひ浮ぶのである十日の

▲賢所大前の儀　の時には吾々の如き者の席は遙か下手ではあるし茂りあつた櫻の枝の間から透して遠くに高御座を拜しました位で其れも勾欄の左の端を見得るに過ぎなかつた其處は各大臣等の昇降する階段になつてゐるのだが遠くはあるし皆一樣の素袍姿ではあり誰れが誰れか鳥渡見極めがつかない始末であつたが併し大隈首相には左右に大禮服の人が杖がついてゐるので成程彼れが首相だなと思はれるのであつた長い事は各宮殿下方も供奉しまつり莊重な[illegible]きれる時それと拜しまつられた其時だが至尊の御姿は南廂を御通ひ遊ばす殿の氣が自然に五躰を襲はず樣で丁度其時

▲最敬禮をする　時にはなつてゐたのだがそれでなくても自然に頭が下がつて來る有樣であつた、十日賢所大前の儀のあつた時　勅語に奉答しまつつた大隈首相が階段を人杖に縋つて降りて漸く階段を下りきつた頃午後三時半の祝砲の第一が鳴り渡つた階段のすぐ側に萬歲旛があつて首相は其處迄行つて萬歲を唱へたのだが其時は第二の祝砲が鳴つた後であつた時刻で言つたら午後三時半から其の三十秒も過ぎてゐたらうかと思はれる頃でよくもあゝ時間がしつくり合はされたものだと思はれる程であつた舞樂は太平樂と萬歲樂とを拜した玉座と相對して奏樂部があり

▲左右に拜觀席　が設備せられてゐたが其拜觀席の後方にある食堂にゐた時に吉備樂や五節舞などは催ほされたらしく拜觀の榮を得なかつたが今の太平樂と萬歲樂とは親しく拜觀席から拜觀する事が出來た兎に角盛儀事も後からこそ思ひ合はせて思ひ浮べるものゝ式に參列してる間は唯もう嚴肅の氣に充たされて何とも言へぬ氣がされる許りであつた

○製造煙草激增

既往三箇月の消費額は累年增進しつゝあつて其年額概ね五、六百萬圓の多額を示し居れり、今本年七月より九月に至る三箇月間に於て各地の製造場又は保稅地より引取り鮮地內に販賣せる製品種別毎の數量は左表の如く紙卷口付煙草二億四千十八萬二千本、紙卷兩切煙草十一萬八千本刻煙草八千三十四貫匁にして之れを其前年同期間の販賣數に比較すれば口付は一割六分七厘を增し兩切は七割一分五厘てふ激增を呈し刻煙草は二割六分九厘を減せり、刻煙草の減退は畢竟携帶に不便なると一面兩切安價煙草の供給旺盛なるより自然之れに嗜好を轉じつゝある結果に外ならざる可し、而して消費金額に於ては左表の通り本年七八九の三月分百二十八萬一千五百六十八圓にして之れを其前年同期間分に比すれば稍々減退の傾向あるも這は畢竟兩切の如き安價品の需用增大せる結果たらずむばあらず、元來後期間たる夏期中は例年喫煙量一般に多少減少するを常とせるに拘らず斯の如く漸次鮮內各地に於て製造煙草の需要增加を來せるは國產獎勵上喜ぶ可き現象なりといふ可し、製造煙草消費數量並に其消費金額比較表を揭ぐれば左の如し

製造煙草消費數量比較表

區分	口付（千本）	兩切（千本）	葉卷（千本）	刻（貫）
七八九月分	二四〇、一八二	二六四、六四〇	一一八	八、〇三四
前年同期分	二〇五、八二四	一五八、四九九	九一	一〇、九九七
比較增減	三四、三五八	一〇六、一四五	二七	二、九六三
同上步合	一割六七	七一五	二九七	二六九

製造煙草消費金額比較表

區分	口付（圓）	兩切（圓）	葉卷（圓）	刻（圓）
七八九月分	四〇一、四八〇	八二四、七六三	二、二六六	四三、〇九九
前年同期間	三八二、一七〇	六〇七、二二三	五、四三三	八三、一八〇
比較增減	一九、三一〇	一八四、四四〇	三、一六七	三九、一三八
同上步合	五六	[illegible]	[illegible]	四七六

人事消息

▲工藤英一氏（全羅南道長官）二十日入京浦尾旅館へ投宿
▲中山外美雄氏（農事試驗場技師）同上
▲平野幸三郎氏（品川煉瓦會社取締役）同上天
▲西村直氏（同上）同上

○趙子爵東京著

子爵趙重應氏御大典參列後十九日東上世田ケ谷の別邸に入れり

○南滿の鮮人（一）

移住者の現狀と將來（朝鮮銀行の調査に據る）

▲人口概覽　滿洲に於ける朝鮮人の戶口調査に關しては關東都督府帝國領事館、朝鮮側官憲の調査あれど何れも精確を缺くの憾あり蓋し滿鐵沿線日本租借地、民國開放地に在る者は戶口調査容易なるも在滿鮮人の大多數は開放地外日本官憲の監視屆かざる方面にあるが故に勢ひ民國官吏の調査に據らざる可らず然るに支那側の調査の如きは自國民に對してさへ民籍の正確なる登錄なき位なれば春耕秋往增減常なき鮮人口の調査の如き殊に信據し難しとす左揭の調査は大體大正二年末に於ける各地領事館より外務省への報告を基とし安東縣鳳凰縣奉天鐵嶺長春の如き帝國領事館所在地附近は昨年末若くは本年六月末の領事館の調査を綜合したるものなれども未だ正鵠を期し難く就中間島並に北滿方面の計數は其否更に確かめ難し唯參考として揭ぐるのみ

都督府若くは領事館管轄別	男	女	計
關東州內	二五五人	二人	二五七人
安東領事館管轄內	四三、七七七	二八、四四三	七二、二二〇
牛莊同	一	―	一
遼陽同	三	一	四
奉天同	六一六	二八四	九〇〇
鐵嶺同	一七二	九〇	二六二
長春同	三九	二五	六四
吉林同	一八二	一一〇	二九二
南滿洲小計	四五、〇四五	二八、九五五	七四、〇〇〇
間島領事館管轄內	五三、三一六	四九、七六六	一〇三、〇八二
哈爾賓同	四、五五一	二、六五五	七、二〇六
齊々哈爾同	一〇二	三四	一三六
間島並に北滿洲內小計	五七、九六九	五二、四五五	一一〇、四二四
南北滿洲內合計	一〇三、〇一四	八一、四一〇	一八四、四二四

以上を各地方別に細分すれば如左

地方別	男	女	計
關東都督府管轄內			
關東州	二五五	二	二五七
計	二五五	二	二五七
安東領事館管轄內			
安東縣	八三一	六六四	一、四九五
鳳城縣	五五五	四〇〇	九五五
草河縣	六	―	六
寬甸縣	一、七七七	一、一四八	二、九二五
輯安縣	一七、一二八	一一、四三五	二八、五六三
懷仁縣	八、〇九八	五、三九二	一三、四九〇
通化縣	六、一五五	四、二一〇	一〇、三六五
臨江縣	七、〇二三	四、六六七	一一、六九〇
莊河縣	二七〇	一五〇	四二〇
興京縣	一、〇〇六	四四六	一、四五二
計	四三、七七七	二八、四四三	七二、二二〇
牛莊領事館管轄內			
牛莊	一	―	一
計	一	―	一
遼陽領事館管轄內			
遼陽	三	一	四
計	三	一	四
奉天領事館管轄內			
奉天	一三九	七三	二一二
千金寨	三六	九	四五
撫伯堡	八一	―	八一
撫順	一一七	九六	二一三
新民縣	一一九	五	一二四
本溪縣	一七二	六五	二三七
石橋子	五二	三六	八八
計	六一六	二八四	九〇〇
鐵嶺領事館管轄內			
鐵嶺	一五	一二	二七
開原	一三	七	二〇
東[illegible]縣	―	一	一
昌圖縣	一	―	一
西豐縣	七四	二九	一〇三
西安縣	六〇	三二	九二
海龍縣	九	九	一八
計	一七二	九〇	二六二
長春領事館管轄內			
長春	三一	二三	五四
公主嶺	八	二	一〇
計	三九	二五	六四
吉林領事館管轄內			
吉林	七	五	一二
濛江縣	一二五	六八	一九三
樺甸縣	九	七	一六
敦化縣	三四	二六	六〇
額穆縣	七	四	一一
計	一八二	一一〇	二九二

即ち南滿地方の在留者七萬二千餘人北滿方面十八萬人、合計二十五萬人にして集團の最も大なるを間島とし鴨綠江上流之に次ぎ同下流第三位に在りとす以下南滿洲各方面に於ける鮮人在住者の狀況を概述すべし

大典奉祝

宮路宗海謹草

瞻仰典儀眞儼然。聖明登極玉音宣。萬民羅拜御溝外。萬歲三聲震九天。

▲國物協會役員會　仁川穀物協會にては二十日午後三時より役員會を開き[illegible]

習字の速進法

てならひのはやくよくできるしかた

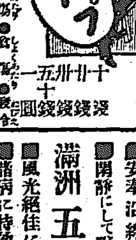
◎本會は斯界の大家日高秩父先生の案に成る最新式習字法を普及す◎本會習字法は根本的に正しき字型と運筆法を教へ功果永久的にして僅々六ケ月にて楷行草の三體を自得せしむる最良の習字法也　每月(一回)十五日發行

會則見本進呈　電話又は葉書にて御申込み次第直に進呈

東京神田駿河臺（電話本局四八四八番）
大日本習字速進會

此際入會の諸君に限り御大典奉祝の爲め記念帖無代進呈

大正五年元旦試筆 大競書會



惡疫豫防と 柏村博士の ヘルプ
▲腸胃の健全なる人が惡疫に傳染せざるは學理の證する所なり
▲故に此際何人も腸胃の健全を主とするヘルプを服用せよ
定價 十五錢 廿錢 卅錢 五十錢 一圓

主治効能 ▶暑氣あたり ●冷腹 ●腹痛 ●食傷 ●水瀉 ●吐瀉 ●食過ぎ ●嘔吐 ●下痢 ●腸カタル ●胃カタルを止め
本舗 東京市日本橋區本銀町 津村敬天堂
取次全國各地藥店

廣島名產 山まゆ織
各種品增加一般大奉仕販賣見本進呈す
廣島市大手町一丁目 高橋光時商店 振替大阪一二〇六九

京日案內
◎番外 一回（無期間）に付金六十錢 一回每に金五十錢

內科 婦人科 難症治療 京城南山町二丁目（壽久家の下） 電話壹壹式四番 一二元堂醫院 840

恩給年金類立替 京城御成町 電話二七七七番 山口屋 855

質用新案堅牢椅子並に防水布 監獄製火鉢格安賣出し 是非共一度御來店の程願上候 洋家具專業 黃金町二長橋通角 松浦京城出張所 電話二三五九番 831

はねつき うちみ くじき 等 一切の治療御依賴に應ず 明治町 柔術道場 847

恩給年金類立替 今般業務擴張の爲め左記へ移轉す（黃金町通櫻井町入る西四ツ角） 博多屋本店 長電話一一三二番 856

恩給年金即時立替 低利手數料僅安 各地方代理店依囑 不在者上京便法有 若草町停留場南入道路突當門內 西村商會 電話二三六三番 857

質舖讓受 明治町二丁目木[illegible]質店の質物全部を讓受けす以後御用の方は當店に御光來被下度候 ○本町三丁目七番地 入木質店 881

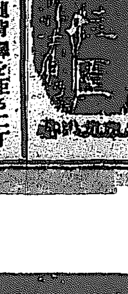
債券 公債 諸株式 賣買 大坂野村德七代理店 京城本町二丁目 田中友吉商店 電話長九九三番 862

內科小兒科 產婦人科 本町三丁目總監部通突當り 今村醫院 電話一八三二番 867

產婦人科 內科小兒科 南大門外蓬萊町鐵道踏切側 今本醫院 電話二八五一番 863

異正 元山牛肉 特色精肉の瀨玉 開店披露の爲當分大安賣出仕候 京城本町二丁目元山入浜精肉店出張所 電話二四一五番 870

質店 弊店は完全なる倉庫を有し懇切に御取扱申候 ふとんあずかり○債券公債買受申候 本町一四の一五 電話一〇二三 福田屋質店 783



安奉沿線五龍背驛を距る二丁
滿洲 五龍背溫泉
■閑靜にして避暑に宜しく避寒に宜し
■風光絕佳にして一大樂園地なり
■諸病に特効あり理想的療養場なり
■宿泊、下宿、自炊、各樣の設備あり

醇良清酒

仁川本町四丁目
吉金酒店
電話七六四番

▲支那沖に怪船 我が颶井丸

何を形勢あ[illegible]

▲獨艦北海に現る 獨逸艦

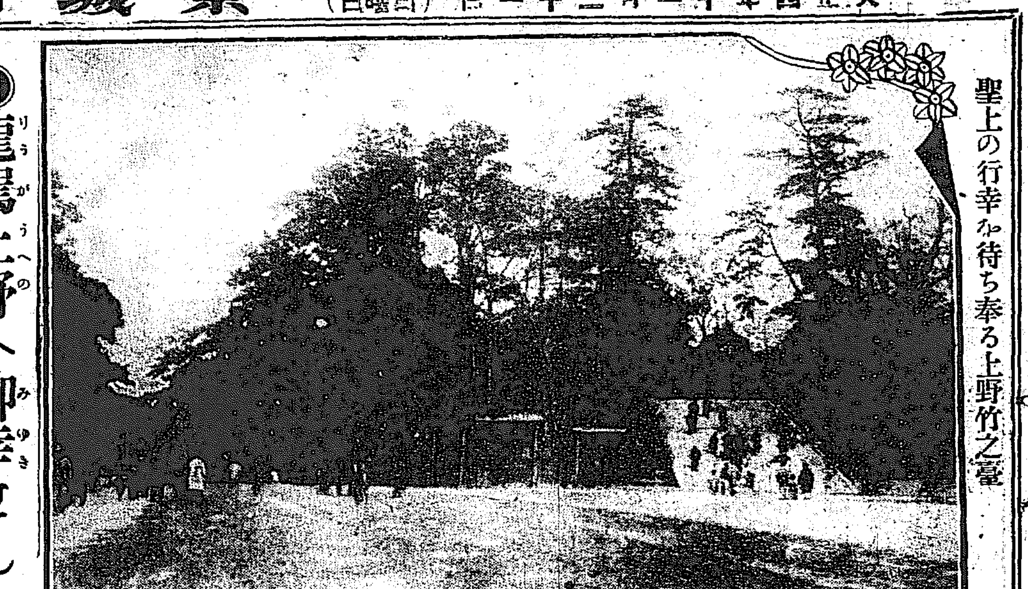
[illegible]

▲袁氏の推薦 北京來電に據

[illegible]

●仁川石油輸移入 仁川十[illegible]入津[illegible]しくありたるを以て本月は唯僅に小[illegible]

◉仁川穀物在庫數 仁川に於て本月十五日迄の在庫數は玄米一萬四千四[illegible]米三百四十八叺にて籾一千九十四叺なり



聖上の行幸を待ち奉る上野竹之臺

●龍駕上野への御幸せん
東京市民の熱誠なる奉祝

東京奉祝會は陛下還幸後十二月九日十日の間に上野に行幸を仰ぎ二百萬市民の熱誠なる萬歳を捧呈する其式場の工事は尊い玉座を設くる事とて先づ差當り地鎮祭を厳かに擧げねばならぬ之は府市の神職會に交渉して多分日枝神社の久保宮司が主掌する事になるであらう、玉座は竹の臺で文展會場の手前、博物館に向つて左手の空地に當る小松宮の銅像との間と定め結構は悉く御即位の大典を擧げられた■紫宸殿に象り 半永久的の建築、破風造りの殿堂で屋根は檜の板葺、屋上高く兩端に翼を擴げた金色の鳳凰を附し、正面十八段の階段も紫宸殿に範を取り、左右の勾欄を設け階段の下には左近の櫻、右近の橘を植ゑ、その勾欄の左右には日月の纛旛三本宛を樹てる、但だ殿上の玉座は南面ではない、博物館に向つて右手に向ふから東面さるゝ譯であるが、之れは一は師走の風寒く、高臺を捲く北風の颯々と吹くことゝその▲萬一を恐れて 假にも玉座間近く巷塵の至るのは恐れ多いと、今一つは櫻樹が多く繁つて建築に差支へのある事から東面にすることの事である、此の玉座の背後には更に一棟の建築があつてその右の文展會場に面した方は御車寄となる■陛下當日は先づ此の御車寄より入御あり、正面奥の便殿に入られる、その左右は皇族の御席となり、左手の次室は教育上に關する市の物産の陳列室、その次室は商工上に關する陳列室、等しく▲天覽に供するものである 右手の皇族席の次室は供奉員の控室その次室即ち御車寄に近い所は奥田市長と中野市會議長とが控へる所である、當日は皇族殿下の御成りは勿論、市長の名で招待狀を出す向は、大臣、大勳位、名譽職、名望家、赤十字婦人會、宗教團體等約千三百人に達する筈であるがこの外に市の公民權を有する約五萬人は其々區役所から入場券といふのを交附する、之れは博物館に向つて右の廣場一帶に入場するので、この招待者と入場者とは別々に入口が設けられてある、招待者は當日の簡單な▲洋食の立食に 與かり、入場者は與かり得ない、この入口は多分小松宮銅像邊に簡單な柵を繞らして設ける筈である、この招待者の席は大天幕張、白布で掩うた食卓がある、そして外に銀製七寶の記念メタル八咫鏡の形の中央に曲玉を浮かし上部に小さく東京市の紋章を記したものを頒つ五萬の入場者には餘りに多數なので經費の都合もあるから、精な五錢程度の記念品を頒たうといふがこれは考案中、猶ほ市として特に四千人の▲高齡者 優遇の爲萬歳樂を浮織にした一尺四方位の帛紗を贈る、これは目下京都の高島屋で調製中で見事なものだ、高齡者を當日式場へ招ずるのは、老體危險とあつて什麼したものかと考へ中である、若し折惡く九日十日の兩日雨天ならば全然中止であるがその時は皇族殿下の台臨を仰ぐことにしようか、それも宮內省へ奏請の上で決定する筈だ

●今年は鳥が廉い
鶴が二圓五十錢

獵季に入つて一月有半、道樂半分の好獵家が得意の鼻を蠢めかしながら提げて歸る山の幸も尠なくないが■本職の獵師連中 が狩り立てる野鳥類がポツ〱市場に出る時節になつた、今年は昨年に較べて氣候の暖かいせいか鳥の數も非常に多いと見えて市場に多く見える、今一番多く出てくるのは京畿道、黃海道方面で就中開城、土城地方である、南鮮地方では未だ餘り獲れないさうだ、相場は鍋鶴が一羽二圓五十錢位雉子の番ひが四十五錢から五十錢雁の小が六十錢から大で七十錢八十錢位、鴨の番ひが矢張り五十錢內外である、小鳥の方では鴨が十羽一圓四五十錢鶉もそれに似た樣なものだ、小賣値は昨年と大した異はないけれども獵師から■商人の手に渡る 元値は餘程廉くなつてゐる、昨今の氣候では大抵一週間から十日位は腸を脫かずにもつさうである捌け口は今の所料理店か土產物に限られてゐるが、これから寒さが增してくるに伴れて需要は廣くなつてくる、相場は今のところは頗る安いが▲十二月に入ると三四割乃至倍額にもなると共に高低が烈しくなつてくるさうである、野鳥類の味の出來てくるのもこれからである

●謠曲大會
喜多會京城支部

友枝敏樹氏門下の喜多會京城支部は二十一日午前八時より新龍山電車終點なる鐵道俱樂部に於て同俱樂部謠曲部と合同にて謠曲大會を催し素謠、囃子、仕舞等各數番を演ずる由なるが當日は喜多流の外觀世、寶生二流の出演者も多數ある由なれば斯道數寄者に取りては亦無き比較研究の好機とも云ふべく且參觀者を歡迎する由なれば定めて盛會ならん因に番組は左の如し

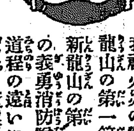
『素謠』雨月(寶生)小督(觀世)草紙洗小町(喜多)井筒(寶生)烏頭(喜多)紅葉狩(觀世)葵上(喜多)『袴能』清經(白鳥)羽衣(多田)藤戸(松田)熊阪(友枝)『舞囃子』大江山(井出)放下僧(村尾)山姥(植木)『仕舞』高砂(松田彌)鐵輪(中川)敦盛(野尻)

●御所拜觀許可
大正五年三月迄

御即位式大嘗祭御擧行後に於ける京都御所二條離宮內を一般民衆に對し拜觀を許可あらせらるゝや否やに就きては宮內省及び內閣に於て詮議の結果愈々許可する事に決定したるが之れが期間は大正五年三月までとなるべく一般何人と雖も之れが拜觀を差許さるべきも其服裝に就ては不敬に渉らざるやう充分取締を嚴になすべし而して御即位式大嘗祭終了後の諸建築物に對しては殘務部を設置して其れ〲處分を爲す筈なるが其一部は京都府其他の公共團體に御下賜あらせらるゝ事に相成るべし(大阪)

●及田技師葬儀
會葬者暗涙に咽ぶ

十四日奇禍に殪れし及田京奉鐵道技師夫人令孃及び佐藤才太郎の葬儀は二十日午後一時本願寺にて執行會葬者一千餘名にて儀仗軍樂隊の參列あり日本在留官民滿鐵鮮鐵代表者段上將軍代理の弔詞あり午後三時終了せり此日僅かに生き殘れる及田令孃玉子の看護婦に伴はれ負傷を包みて父母亡き姉の佛前に燒香せる狀の哀れなる參會者をして涙を催さしめたり(奉天特電)



我社火災の際舊龍山の第一第二部新龍山の第一部の義勇消防隊は道程の遠いにも不拘逸早く駈け付けて消火に盡力した▲十七日の夜の龍山は全市を擧げて奉祝し提灯行列、各町內の屋臺の練廻り等却々盛んなことで消防手の中には假裝行列に加はつた連中も尠からずあつた▲御祝の酒に前後を忘れ白粉を塗けた儘睡つたと思ふと『火事だ!』▲顏を洗ふ間もあらばこそ慌てゝ忙いで消防衣を著けて飛び出したので火事場には白い顏のもあれば眉の馬鹿に太いのもあつたが其れが又一層勇ましく見えた▲舊龍山の組頭松本君も新龍山の組頭市川君も這麼大きな火事は始めてゞあつたと云ひ殊にアノ鐵筋コンクリートの建築物は始めてで之れに對する消火法は大に硏究せねばならぬと思つた▲アノ高い家の天井裏を這つて居る火だから實の所手の附け樣がなかつたので松本組頭は命を惜まず働けと命令して其れと同時に破壞方にかゝつたものだ▲火を包んだ百四十尺の高塔が工場の屋根に墜落し樣ものなら煉瓦造りであつても一堪りもなく燒失したであらう▲と云ふので各消防は之れに全力を盡したのと幸に風の向きもよかつたので皆反對の側に倒れて鐵道工場と輪轉機とに故障なからしめたのは何よりであつた▲兎も角消防隊が全力を盡して消火に努めたのは一般に認められた所で消防手自身も能く働いたとは思つて居るが消防器具の不足を感じたのは事實である▲京城には未だ大建築物があるから今回の火災を機に充分不虞の災厄に對する用意をして置きたいものと思つた▲最も不思議なのは出火の原因である、取るに足らぬ說だが提灯行列の後始末が惡かつた爲め其れから火が出たと云ふが私が駈け付けた時には未だ其提灯が燒けずに殘つて居て全部取り出されたのを目擊して居るから提灯の火なぞと云ふ說の不當は私が斷言すると松本組長が語る傍から一消防手は漏電に違ひないさと云ふ▲二十一日には消防大會があるが席上此火災に就いて與へられた消防上の知識は互に交換さるゝことゝだらうが吾々消防に關係するものは硏究もするが世人も亦消防と云ふ點に常に留意して平素から之れに對する用意があつて欲しいと思ふと言つてゐた▲猶ほ消防隊の中で他所に劣らぬ活動を續けたものは總督府の消防隊であつた、消防隊の現場に來たのは彼是七時三十分頃だつたが直ちに本社東側の玄關口最も猛火の猛り狂ふあたりにホースの筒口を差向けたのであつた、水管は[illegible]あつたけれ共何分ホースは長谷川町大觀亭內から百六十間の間を續いた許りとて其の苦戰奮闘振りも目覺しき許りで見るものとしてその困難を冒しての奮闘振りに感心せねばなかつた

●私立養源女學校の火事

二十日午後七時三十五分京城慶興洞六十六番地校洞私立養源女學校より出火同校全燒(木造三十五坪)同八時二十分鎭火せり出火の急報に依り昌德宮消防隊鍾路消防隊駈付け消防に盡力したる爲附近類燒を免るゝを得たり失火の原因は未だ不明なるも當日校內にて懇親會ありたる由なればストーヴ又は火鉢の火の消え殘りたるものより發火せしならんと云ふ

●店子差配人を毆り付ける

長崎縣南高來郡湊町生れ當時京城本町二丁目飲食店營業荒木老松(五七)は南山町中島某の所有せる借家にて營業し居たる所何箇月も屋賃を不拂ひなりし爲め度々請求を受けたるも依然として不拂ひの爲め家主も持て餘したる末同人居宅前の空地を利用し大なる家屋を新築したるより荒木の借家は新家屋に遮られて通行人の目に觸れ難くなるに至りたるより荒木は頗る不平にて過し居る矢先き本年九月二十七日午後五時偶々來合せたる屋主中島方の差配人布川某に對し自分の居宅前に家屋を新築されては營業上大に差支ふるを以て新築することを中止するか自分を他の適當の借家に轉宅せさるか何れかの方法なりとも取計らひ吳れと申込みたる際布川より却て營業上差支へあらば即刻家を明け渡すべしと迫られ荒木は烈火の如く憤怒し暴行を加へん氣勢を示したるを以て布川は辟易して室內より逃げ出したるを荒木は追掛けさま有合せたる下駄を以て布川の後頭部に毆り付け深さ骨膜に達する二箇所の創傷を負はしめたる爲め布川は荒木を其筋に告訴し荒木は取調べの末檢事より起訴されたり

●亂暴三人男

靜岡縣生れ當時京城旭町二丁目土木請負業佐藤熊太郎(四六)及び同縣生れ京城御成町居住塗料製造業平岡鐵太郎(四〇)の兩名が去る十月十七日午後九時半頃本町二丁目電氣會社の橫丁小路を通り蒐りたるに一人の男道の中央に放尿し居るより其不都合を責めて制止したるに件の男は京城吉野町一丁目金貸業山本隆藏(三二)といふ者にて制止を肯かばこそ却て反抗して喧嘩をふきかけたるが後中止して其儘同町キリンバーに這入りたるを前記兩人は其後より追かけ行き無言はさず佐藤は携へゐたる洋杖にて山本の前額部及び指を毆ぐり平岡は足を擧げて二回同人の臀部を蹴飛ばしたり爲めに山本は兩名を告訴するに至り佐藤平岡の兩名は暴行罪にて山本は放尿の罪に依り三名共檢事より起訴されたり

●女の胸に自轉車

三重縣生れ京城本町四丁目川村方店員橋本宏造は九月二十三日自轉車にて花洞なる昌德宮城壁西側を北行し曲り角に差蒐りたる際注意足らざりし爲め折柄前方より來合せたる北洞三十二番地の白氏に車體を衝突し同女の胸部及び肋骨部を傷め治療日數四週間を要する打撲傷を負はしめたる爲め檢事より起訴せられたるが一般自轉車乘の者は注意すべき事なり

●牛乳賣子の罪

愛媛縣伊豫郡砥部村城戶源藏(二七)は大正三年八月一日より本年七月二十四日迄京城永樂町二丁目牛乳店牛山牧場の牛乳配達に雇はれ配達中數十回に牛乳六斗を盜みて竊かに賣却し代金の取立方は他の店員擔當し居るにも拘らず自分も取立方を託せらるゝ如く裝ひ得意先なる櫻井町加治某外數軒より三十餘圓を集金し之を悉く酒食に消費したる爲め其筋の厄介者となる

●酒醬油代金著服

栃木縣下都賀郡中村當時京城本町一丁目酒醬油販賣商中川京城支店の店員に雇はれゐたる田波啓三(二十)は注文品の得意先廻りをなし居れる所本年八月十日より九月三十日迄の間に得意先の注文物の如く裝ひ酒醬油等を持出し永樂町島田某方外三十七軒に數十回に亙り合計酒五斗四升醬油二斗四升九合味噌七貫九百匁外雜品十八點(此價格四十一圓餘)を賣却して代金を悉く騙取したること發覺し遂に解雇の上御用となる

●漢江の難船

京畿道金浦郡霞城面後坪里內舊柯作里の東方漢江に於て朝鮮型帆船一隻難破沈沒し居るを金浦警察署に於て發見取調べしに同船は黃海道延白郡銀橋里朴德俊の所有船にて百二十六石積のものなり同船に金浦郡大串面雁里の中明淳、華郡德津浦韓公順(三五)富川郡積島金顯在(三五)の三名乘組み限橋より籾を滿載し京城府麻浦に向ふ途中前記の場所迄漢江を航行し來りたる際滿潮にて船體の操縱不能となり暗礁に衝突し潮水一時に浸入して遂に沈沒するに至れるものなるが前記明淳は平坂に取縋りて同郡高村面楓谷里の漢江沿岸に泳ぎつき危く一命を拾ひたるも他の二名は遂に行衛不明となり目下同署にて死體搜索中

◉三浦氏の送別會 鍾路小學校訓導三浦男氏は今回全羅南道光州小學校長に榮轉せるに付き在京友人相寄りて二十二日夜原金旅館にて送別會を催す出席希望者は高女宮崎氏に申込むべしと

廿日御見舞を辱うせる芳名

三井八郎右衛門　山崎正秀　太刀山　國見山　入間川　木村健夫　殿松堂　天野秀一　神坂退三

龍居頼三　中村彥　鳳　友綱　松村重治　原勝一　播本恒太郎　平田德太郎　人見一太郎

京城日報社

◉京城基督教會 南大門內南米倉町 午前十時朝拜說教『日本組合教會總會の經驗』[illegible]

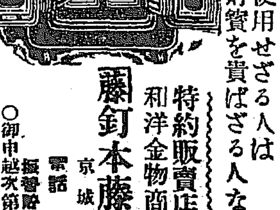
◉救世軍の集會 二十一日(日曜)夜八時永樂町二丁目通用內にて『南風か自由か』石島大尉

金牌受領

上酒壹升に付四拾錢 御用は特に割引可致候

清酒 美淋 燒酎 釀造元 京城櫻井町一丁目 電話百七十七番 中井酒造場

東京竹內製金庫の堅牢確實なるは既に世に定評あり



◎金庫を使用せざる人は財寶を貴ばざる人なり

◎財寶即ち生命なり金庫は遺憾なくこれを保護す

特約販賣店 和洋金物商 藤釘本藤次郎本店 京城本町二丁目 電話 四五〇 二七七四番 振替貯金京城二五六番

○御申越次第目錄進呈す○

くすりは山岸

諸官衙御用達 洋藥賣藥卸問屋 醫療及試驗器械

懇切叮嚀、迅速確實に市內配達及び地方通信販賣致居候

京城本町一丁目郵便局前 山岸天佑堂 藥品部 器械部 電話 一二三 一〇七 六〇二 振替貯金口座京城二〇五

移轉御披露

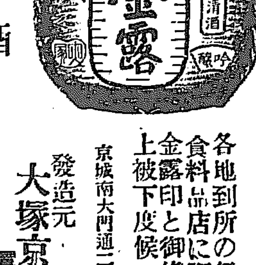
謹啓先般來市區改正の爲め家屋取壞し左記場所へ改築中の處今般落成と同時に移轉仕り從前の通り營業致候間此段御披露申上候 敬具

十月三十日

京城黃金町二丁目(電話一〇一五番) 時計商 喜多金光堂 振替口座七八二番

品質卓絕

醇良 清酒



攝津灘魚崎 釀造元 大塚合名會社

各地到所の信用ある食料品店に販賣せり金露印と御指定御買上被下度候

京城南大門通二丁目 發賣元 大塚京城支店 電話四四〇番 振替京五七〇番

株式會社 漢湖農工銀行 京城南大門通二丁目

資本金 壹百萬圓

政府貸下金 三十二萬九千二百圓

農工債券發行高 百參拾萬圓

銀行長 白完爀

支配人 遠山熙

電話 五二四番 五二七番 五五五番

支店 (開城、春川、江景、太田、公州、鐵原、淸州、忠州、論山)

當銀行は普通銀行業務も確實親切に御取扱申候

千生瓢（46）

須藤南翠作　筒井年峰畫

密計（十四）

蜂須賀正勝はつか〳〵と出會ひて
『本丸外曲輪と隔てゝも、同じ堂木山の砦ぢや、將監殿自身參られても然るべきに、態々の入つた御使者、御用の筋は何でおざるな』と、心易く問ふのであつた。
今井角右衛門は慇懃に式代して、
『主人將監申しまする、久々の御滯陣、嘸かし御退屈入らせられう。將監事も永の日を送りかね、只管徒然に苦み居りまする處、長濱表の知人より湖中の鮮魚を送り來し、又若州の同姓より小鯛多くさし送り申した折柄、都の知音より灘酒の見舞に與り、貧僧の重ね齋とやらにおざる。一人にて賞翫致すも曲なければ、明朝茶事を催し、打寬いで一獻酌みたく、木村殿へも申し入れておざる。何卒御父子にて御入來下さらば、面目次第もおざりませぬ』と、謹んで述べるのであつた。
正勝聞きも果ねに、
『山路殿の使者今井角右衛門とは其方か』と諮ねた。
『仰せの通り角右衛門おざりまする』
『其方元よりの譜代か、但し抱へ入れの新參者か』
『蜂須賀殿には異な御穿鑿なされまする。譜代にもあれ、抱へ入れにもあれ、山路將監が使者に二つはおざりませぬ。將監が口上申し入れた上は、先づ御返事を仰せ渡され、さて後々にて餘事の御穿鑿なされべき筈かと、憚り角右衛門は存じまする』
正勝は怫然として憤つた。
『憎し、角右衛門、其處動くな』
言ふより早く、佩刀すらりと引拔いて、只一刀と斬り付けた。角右衛門飛退つて、
『これは〳〵蜂須賀殿にはきつう御短慮、左やうお焦なさるゝは、如何なる御心入れおざるな』
『それを汝が聞いて何となる。覺悟せよ』
また打込むを引外して、

『小可事は近來抱へられた美濃侍、御見識もあるべき歟、併し夫は使者に就て入用おざらぬ。例之書狀を以て申し入れた節、貴殿は其料紙の產地を御吟味なさるゝ歟。先づ〳〵御心を靜められ、將監が口上に就いての御返事、速かに仰せ聞けられたい。何とでおざる、蜂須賀殿』と、怯ず臆せず述べ立てた。
『まご〳〵左樣の事を申すか。返事は此方胸にあるわ』と、正勝は睨めつけてゐる。
『御胸に包ませらるゝ御返事、承つて踊りませねば、使者の役目は立ちませぬ。左樣の事御存じなき蜂須賀殿でもおざるまいに、意地惡くくねりめさるは、何とも不思議に存せられまする』と飽まで返事を强ひるのであつた。
正勝はから〳〵うち笑つて、
『口賢い下郎め、左程返事の聞きたくば、申し聞ける、よつく聞け』
『相違なく伺ひまする』
『正勝とても此處出陣以來、一戰も致さぬに依つて、退屈は此上ないわ。斯く申す彥右衛門も、長濱には年來住馴れ、懇意知音も多く、都には傍輩もあれど、何方よりも小鯛一尾、酒一樽、贈り來す者はない。是れ兼々陣中へは音物無用との觸あるに依つて、皆軍令を重んずるからぢや。然るに將監長濱の居住久しくもあらぬに、湖中の鮮魚を得たといふ是れ第一の不審ぢや。斯樣に處々に陣を張れば、湖中の漁ば絕えてなき筈、その無き漁に得たる鮮魚の、馴染薄き將監が陣にのみ、到來すべき所由はないわ。又若州より便のあつたと申す、是れも亦不審ぢや。若狹の國の通路と申せば、高島郡の小入谷、天增川、森西、白谷の四道の外はない。是皆丹羽五郞左衛門尉殿の領國、海津鹽津を縱すには此ハ處へ來べきやうはない。海津鹽津には關を設けて、雜魚一尾でも通す事はない筈、然るに將監が手にばかり、小鯛の入らう道理はないぢや。況て都より灘酒の到來、飮まぬ酒の謠語、誰が聽かう?。我等が譜代か新參かを糺したのは、譜代ならば將監と心を合せ、僞りを以て人を欺く計略、見逃すべき者でない。之に反して新參ならば、何事も辨へ知らず、使者に立つた者、一命は助け遣はさう爲ぢや、將監が大虛言、異直に申立てよ』と大喝を下したのであつた。

京城明治町木村屋パンを知らぬ方ありや（京城市內食パン共同配達電話二八七〇番）

京城南大門通三丁目（藤木商店横入る）
入院隨意
胃腸病院
電話一六五九番
院主　佐々木杏造

文展より

ST生

□今秋は美人畫が多い
□蕉園女史と輝方氏の作品
□春の樣な美人畫室の氣分

秋の美術界の中心は何といつても上野の山に集まつてゐる。今年の文展ほど人氣のあるものはあるまい。美術院や二科會や殆んど文展に人氣を奪はれた形である。今年の文展、出品中、日本畫は殊に美人畫が多い。それが又この素敵らしい人氣の原因らしい。會場を步き廻つて得た感想を二三書いて見る。衆群の中に混つて步く中にいつの間にか、押され押されて、美人畫室へ來て了つた。右を向いても左を向いても皆妖艶な時代粧ひの美人が目に媚をたゝへて見つめて居る。

■蕉園女史　の大作『かへり路』は輝方氏の『木挽町の今昔』と共に精緻を極めて居る。殊に輝方氏のは數十の人物を配置よく畫面を亂さずに描かれてある。その微細な技巧に感服する。島成園女史の『稽古のひま』は濃厚な色彩に觀者の眼を牽きつけてゐる。さては又『暖か』（恒富氏）の燃る樣な緋鹿の子の下著の吹けよ微風とも言ひたい風情『享保の頃』（山下昇雲氏）の憎らしい程可愛い禿の姿態の妍爛さ、一つとして觀者を牽きつけずにはおかない。什麽して斯も魅する樣な美しさが描き出せるのかと熟視して居ると前よりも更に美しい季節好みの美人二人の淡すり摺違ひ樣にゆるやかに床しい香は疑ひもなくホーカー液のそれであつた美人畫に相對して

▲花の如な美人　さホーカー液の香！是は誰にも直覺的に感じられる事實である現代の美人でホーカー液を愛用しない人がどれ丈あらうか有るとしたら、それは美の精髓に於ける最優勝者である事を解せない人であるこんな事を考へながら彫刻室へ入る此室での大作『橘姫』（北村四海氏）が先づ眼に止る。次は『阿許也姬』と『花ちる音』（石川確治氏）が視線を引く。室の中央には『行人』（小倉右一郎氏）が可成注目せられて居る。其他『つかれ』『わなゝき』『春よ永劫なれ』『夜の深さ』『目覺めたるサイキー』等の石膏や大理石の裸體像が何物かを暗示する樣に、曲線美の妙を極め、恰も春

■處女の乳房　に觸れるかの樣な柔かい氣分を漂はしてゐる。此の美しい肌！飽くまでキメの細かい透き通つた皮膚！裸體美！吾々は其の美に憧れてゐる、現代の美術家が多大の苦心と努力を勞して表現せんとする人體美と化粧料ホーカー液とはかくて切つても離す事が出來ない關係を有してゐるのである。つまりはホーカー液が眞の肉體美を發揮するのに缺くべからざる化粧料であるといふ事である。然り！ホーカー液を常用しつゝある婦人は一見して直に判斷し得る。それは自然の白さに加へて艶かあり、且つ柔かく生々した皮膚を持つて居るからである現に文展に入場してゐた貴婦人令孃の多くがその艶々しい化粧振りにホーカー液の床しい香りを止めてゐたのである。殊に是からは到る所にホーカーの香が匂ふ事であらう、何となれば秋から冬へかけての最も荒れ易い季節に於てホーカー液は殊更に其偉力を發揮するからである、即ち日ヤケ白粉ヤケを防ぎ色を白く肌理を細かに白粉のノリノビを好くし化粧崩れ等の虞がなく、又素化粧用として顏其他の小皺を伸し、肌の荒を防ぐ等の特効があればこそである。この秋の文展に於て私は痛切に肉體美の必要を感じたまゝ美人たるの要件としてホーカー液の使用を諸孃に御勸めする

大阪株式特電

二十一日朝夕刊各株式欄の日附二十[illegible]

[illegible]　二十日前場　七〇、五〇　五三、〇〇

大阪期米特電（二十日）

▲後場　當限寄付十三圓四十八錢▲[illegible]

仁川米豆取引所

安値　一三、〇四　一三、〇四　一三、一八　一三、一九　一三、六五　一三、六八

止め　三錢四錢五十三錢四錢五錢四錢九錢　六錢七錢六錢

▲二十日後場　大阪前止十四[illegible]

賣一千五百石買（山ア）百石賣百石買（二巴）七百石賣三千三百石買（進山）千五百石賣千五百石買（丸ヤ）三千四百[illegible]

爛先大阪の上盛を受けて九圓五十八錢と前日の高値上廻りに寄付たるが（丸ヤ）（金七）（三引）（丸吉）（丸ヤ）其他より利喰に新規に賣物頭はれ（丸[illegible]

圓二十錢三十錢四十錢五十錢賣物道[illegible]して如何あるべき

▲本日の現物界　籾忠清道四[illegible]

（高値　九五十八錢）（安値　九五十二錢）
出來高　二萬千九百五十石

散歩ま…
消化と毒けし
仁丹
召上りましたか
金言　最大なる出來事は多く偶然なり（英國諺）
仁丹一粒、イ、氣持！

美　味　營　養

體育保全
補血飲料
フェロール
創業元　大阪道修町　藥劑師　小西久兵衛
は人體の生存に缺き難き主成分より成れる美味適快の滋養强壯料にして効果頗る著大夙に醫家の賞用を蒙る
醫家適應諸症
（譯名）滋精
●貧血虛弱　●老衰病後　●神經衰弱
●消化不良　●產前產後　●疲勞衰弱
●大瓶（約半月分）金壹圓五拾錢
●小瓶（約一週分）金八拾錢
◎賣藥各藥舖に
◎京城地方は本舖へ
▲代理店　京城南大門通　新井藥房　京城太平通　キムラ藥舖　釜山辨天町　大黑藥舖　木浦　木下藥舖　元山港　石川濟生堂　安東縣市場　井上藥舖

御子樣方の軟かな御齒をも保護する
クラブ齒磨
高貴御料
日本名物
三月十六日の大阪新報に現はれたる齒科ドクトル志村誠磨氏の談に曰く
齒が惡くて私の宅に來る患者は女七分男三分の割合です婦人は男子に比して身體の變化のある時が多い例へば姙娠哺乳の場合には口中に酸性が多くなる傾に化學的作用を起して齒が腐り易くなりますからよく掃除しなければなりません齒を丈夫にするのはつまり自分の健康を增し生命を長くする事だと思つたら忙がしくても出來ろでせう現に私の家では皆朝と三度の食後と就寢前と都合五度齒を磨いてゐます婦人は自己の齒を好くすると同時に子供の齒並を損じないやうに注意しなければなりません子供は七八歲から十一二歲迄に乳齒が脫けますが此乳齒に虫齒があると次に生える齒が良くありません……齒磨粉は色の著いてゐない方が良いのです云々
クラブ齒磨は清淨雪白且つ絕大の殺菌力を有する本邦第一の齒磨であります